

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—令和元年度実績—

令和2年9月
栗原市教育委員会

目 次

| | |
|--|----|
| 1 点検・評価制度の概要 | 1 |
| (1) 趣旨 | |
| (2) 学識経験者の知見の活用 | |
| (3) 点検及び評価の対象 | |
| 「栗原市教育基本方針」 | |
| 2 点検・評価の結果 | |
| 【学府くりはらの学校教育】 | |
| 創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援 | 7 |
| 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | 9 |
| 自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進 | 14 |
| いじめを許さない学校づくりの推進 | 15 |
| 一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進 | 16 |
| 健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実 | 17 |
| 【学府くりはらの社会教育】 | |
| 生涯にわたる学習機会の提供 | 18 |
| 生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 | 23 |
| 国際理解のための学習や事業の推進 | 25 |
| 文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進 | 26 |
| 文化財の保存・活用と継承活動の推進 | 27 |
| スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | 29 |
| 3 学識経験者の意見 | 32 |
| 4 栗原市教育委員会の今後の方向性 | 34 |

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を3名選定しました。

○ 佐藤 哲也 氏

【現職】 宮城教育大学教授（幼児教育講座）

【専門領域】 幼児教育学 アメリカ教育思想史

【研究テーマ】 保育実践理論 子育ての社会史 プロテスタンティズムの子育て思想

○ 黒川 修行 氏

【現職】 宮城教育大学准教授（保健体育講座）

【専門領域】 教育保健学 学校保健 衛生学 公衆衛生学

【研究テーマ】 子ども 健康 環境 発育

○ 渡辺 尚 氏

【現職】 宮城教育大学准教授（理科教育講座）

【専門領域】 理科教育

【研究テーマ】 理科教材開発 科学教材開発 化学教材開発

(3) 点検及び評価の対象

令和元年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

令和元年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、次代を担う子どもたちの創造性、主体性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

目指す『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の振興
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

| | |
|------------------------------|--|
| <p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するための35人を標準とする学級編制と少人数指導の実施 ② 個性を伸ばし、児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置 ③ 市立学校再編計画（後期計画）に基づく学校再編の推進と教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の充実と3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により、就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助と就学機会の確保 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 通学における利便と安全確保を図るための遠距離通学の幼児、児童及び生徒への通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施及び結果に基づく協力体制の構築と協働教育の推進 ⑩ 栗駒山麓ジオパークをはじめとする豊かな自然環境を生かしたふるさと教育や農業体験学習の推進 |
|------------------------------|--|

【子どもたちの確かな学力の育成】

| | |
|---|---|
| <p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 市独自の研究指定校に勤務する教員を中心に、先進地（秋田県大仙市）に派遣する研修事業を軸とした、より効果的な学力向上対策の共有と推進 ② 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ③ 幼稚園、小学校及び中学校の教職員並びに保護者を対象とした学力向上に関する講演会の実施 ④ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ⑤ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、県英検I B A、市独自の標準学力テストの実施と結果分析による課題の把握に基づいた継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑥ 確かな学力の育成に資する教科指導等におけるICTの効果的な活用を図るための研修会の実施 ⑦ 国際理解を深め、英語教育を充実するためのALTの配置と英語に慣れ親しむための事業や教員対象の研修会の実施 ⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上及び自主的学習の習慣化を図るための学習会の実施 ⑨ 家庭における学習習慣の確立のための教員や保護者及び生徒を対象とした講演会の実施 ⑩ 部活動等の適正化による望ましい基本的生活習慣の定着と家庭学習時間の確保 ⑪ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与 |
|---|---|

【安全・安心な学校教育の推進】

| | |
|------------------------------|--|
| 自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 発達段階に応じて自らの命を守るための危険予知能力の育成 ② 貴重な地域資源である栗駒山麓ジオパークを活用した防災教育等の推進 ③ 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進 ④ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化 ⑤ 通学路の安全の確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進 ⑥ 学校の防犯、防災及び安全管理体制の整備推進 ⑦ 学校遊具の安全点検の実施 |
|------------------------------|--|

【子どもたちの豊かな心の醸成】

| | |
|--|--|
| いじめを許さない学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 「栗原市いじめ防止基本方針」や各校園の「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ問題についての教職員間の共通理解、教育相談等の学校全体での組織的な取組の推進 ② いじめや不登校などの問題行動の未然防止や早期発見、早期対応等による迅速な問題解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめの未然防止及び早期発見のためのQ-U調査等の結果の活用を図る研修会の実施と人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進 ④ いじめ問題の重大事態の調査の実施やいじめ・不登校対策担当者等を中心としたいじめ防止対策体制の強化 ⑤ 命を大切にする学習の実施及び学校・保護者等での「重大事態発生時における緊急対応の手引き」についての共通理解の深化 ⑥ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進 |
| 一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進への支援 ② 幼稚園及び保育所から小学校への円滑な接続を図るための教育課程の編成と連携事業の実施 ③ 教育相談事業の実施とその対応策等の指導・助言の支援 ④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指した子どもの心のケアハウス事業等の体制整備と登校支援ネットワーク事業の活用 ⑤ 支援を必要とする児童生徒への理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催 ⑥ インクルーシブ教育システムの実現を理念とした、特別支援コーディネーターのスキルアップと関係機関との連携の推進や校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等への丁寧な説明と合意形成による児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施 ⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関と連携し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」の作成及び活用に向けた支援 |

【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

| | |
|----------------------|---|
| 健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ③ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施 ④ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ⑤ 幼児、児童及び生徒並びに教職員の健康促進のための健診事業 |
|----------------------|---|

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

| | |
|------------------------|---|
| 生涯にわたる学習機会の提供 | 【家庭教育の支援】 ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 子どもを養育する保護者等を対象とした学習機会の提供 ③ 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ④ 関係機関と連携した子育て支援の推進 |
| | 【青少年期の活動支援】 ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 青少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援 |
| | 【成年期の活動支援】 ① 学習、交流活動の機会と活動の場の提供及び支援 ② 成人教育体制の整備を目標とする生涯学習団体及び指導者等の育成 ③ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供 |
| 生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 | ① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実 |
| 国際理解のための学習や事業の推進 | ① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 国際交流関係団体との連携強化 |

【地域に根ざした文化芸術の振興】

| | |
|--------------------------|--|
| 文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進 | ① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 文化施設の設備充実と環境整備 |
|--------------------------|--|

【文化財の保存と活用の推進】

| | |
|-------------------|---|
| 文化財の保存・活用と継承活動の推進 | ① 地域の文化財の調査、保存・活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実 ④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援 |
|-------------------|---|

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

| | |
|------------------------|---|
| スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | ① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成・指導とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの育成と創設に関する支援 ⑤ 各種スポーツ大会における関係団体や学校との連携強化 ⑥ 東京オリンピック事前キャンプ誘致に向けた取り組み |
|------------------------|---|

点検及び評価項目一覧（令和元年度実績）

| 基本方針 | 基本目標 | 具体的施策 | 具体的事業 | 自己評価 |
|--------------------------------|---|--|---|------|
| 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造 | 創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援 | 1 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」 | B |
| | | | 2 「幼稚園、小・中学校のホームページの適切な更新」 | B |
| | 子どもたちの確かな学力の育成 | 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | 3 「教育研究センター事業」 | A |
| | | | 4 「学力向上対策プロジェクト事業」 | B |
| | | | 5 「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」 | A |
| | | | 6 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」 | B |
| | 安全・安心な学校教育の推進 | 自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進 | 7 「地域と連携した防災訓練の実施」 | A |
| | 子どもたちの豊かな心の醸成 | いじめを許さない学校づくりの推進 一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進 | 8 「命を大切にせる教育」の実践 | A |
| | | | 9 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」「心のケアハウス事業」 | A |
| | 子どもたちの心身の健康と体力の向上 | 健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実 | 10 「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」 | B |
| 共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造 | 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 | 生涯にわたる学習機会の提供 | 11 「家庭教育学級」「家庭教育講座」 | A |
| | | | 12 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」 | B |
| | | | 13 「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等 | A |
| | | | 14 「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等） | C |
| | | | 15 「くりはら市民大学」 | A |
| | | 生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 | 16 「協働教育推進事業」 | B |
| | | | 17 「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会） | B |
| | | | 18 「青空大使派遣事業」 | A |
| 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進 | 地域に根ざした文化芸術の振興 | 文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進 | 19 「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」 | B |
| | 文化財の保存と活用の推進 | 文化財の保存・活用と継承活動の推進 | 20 「文化財標柱等整備事業」 | A |
| 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進 | 心身の健康保持増進とスポーツの推進 | スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | 21 「歴史・文化の継承支援伝統芸能活動支援事業」 | B |
| | | | 22 「栗原ハーフマラソン大会」 | B |
| | | | 23 「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」（教育委員会主催事業） | B |
| 24 「宮城ヘルシー2019ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」 | B | | | |

| | | | | |
|--|-------|--|---|--------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造 |
| | 具体的施策 | 創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援 | | 担当課 教育総務課 |
| 1 目的 | | | | |
| 学校教育において、児童生徒一人一人が主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけ、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合い、幅広い資質を培う。 | | | | |
| 2 具体的事業 | | | | |
| 施策を構成する事業 | | | 目標指標 | |
| 1「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」 | | | | |
| 事業概要及び目標 | | | | |
| 栗原市学校再編計画（後期計画H26-H31）において、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけ、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという観点から、小学校では各学年2学級以上、中学校においては学校全体で9学級以上とする学校再編を推進し、適正規模の確保に努める。 | | | | |
| 3 令和元年度の取組と自己評価 | | | | |
| 取組と成果 | | | | |
| 高清水・瀬峰中学校の再編により、栗原南中学校を開校。（開校式 平成31年4月13日） 築館地区小学校再編について、宮野小学校父母教師会会長と令和元年9月5日に意見交換し、父母教師会の意向を確認したが、再編について合意を得ることが出来なかった。 | | | | |
| 評 価 | | | | |
| B | | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満） | | |
| 4 令和2年度に向けた課題・今後の方針 | | | | |
| 築館地区小学校の再編については、平成29年12月に宮野小学校父母教師会から学校再編に係る意向調査の結果「学校再編には反対」との報告を受けている。令和元年度においても父母教師会の合意を得ることは出来なかった。 | | |  現在の宮野小学校においては、適正規模は確保できない状況にあることから、再編について、今後も、児童数の推移を見ながら、保護者との意見交換を行い、再編を進める必要がある。 | |
| 5 学識経験者の意見 | | | | |
| 後期計画（H26-H31）に基づく築館地区小学校再編について、着実に進行し地域住民との丁寧な意見交換を行っていることが垣間見られ、自己評価Bというのは頷ける。 宮野小学校父母教師会会長と9月5日に意見交換を行ったとあるが、その中身についての報告が薄いと判断できる。果たして適切な意見交換であったのか、あるいは反対意見の中に建設的な意見があったのかが判断つかない。後期計画を完遂させるためにも、地域の住民との話をよりオープンにして、栗原市としての平成20年までに多くの市民を巻き込んで合意を得た内容を修正するのか、新しいデータを示しながら具体性を伴った、より一層丁寧な説明と意見交換の場が必要なのではないかと考える。後期計画日程が過ぎたと考えられるので、修正案や今後の見直し、あるいは新しい計画について触れた報告が必要であろう。 平成23年の東日本大震災や現在のコロナ騒動等の社会情勢の大きな変動があったが、津波被災地区からの震災移住による一過性の人口流入があったにせよ、人口減に歯止めがかかっているのかそうでないのか（2015年12月6日の河北新報記事で取り上げられた「宮野地区は若者が流入し、人口が増えている」という住民の意見にデータをもって答える）など、データを示した地域住民との説明が求められる。場合によっては、父母教師会の中で教師側の意見（行政サイド）と保護者サイド（地域住民）の真意を正す必要があると考えられる。父母教師会の少数派～やや過半数の意見が、代表意見となつて、議論を席卷している場合も想定されよう。適正規模が確保できないという重大な教育的支障があるのであれば、昨今の経済情勢、働き方改革などと併せて議論するなどの工夫も必要であろう。恐らく、各学年1学級を継続した場合、使命感に燃えた宮野小学校に勤務する先生方は、出張や研修に参加する機会もままならないギリギリの人的配置を余儀なくされていることなど、キチンとお伝えすべきことかと考えられる。 栗原市の公式ホームページでは、栗原市立学校再編計画 実施計画（後期計画）の更新日が2018年7月19日で止まっている（閲覧日2020.7.26）のが気になる。公表できないような重大局面が続いているとも思えないので大変残念である（報告書の「令和元年度の取組と自己評価記述」がたった3行しか記述がなく、硬直した情勢を打破するための施策を伺えない）。 是非、過去の報告書「栗原市立学校再編計画（全文43ページ冊PDF）平成20年3月栗原市教育委員会」を公表した当時の初心を紐解いて、干支が一回りした地域情勢や社会情勢の変化に照らし、この間行われた学校再編の検証結果を十分吟味した上で、学校再編計画の遂行が必要と考えられる。 | | | | |

| | | | | |
|------|-------|-----------------------|------|--------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造 |
| | 具体的施策 | 創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。

2 具体的事業

| | |
|--|---|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 2「幼稚園、小・中学校のホームページの適切な更新」 | 小・中学校・幼稚園のホームページの更新回数現状値 |
| 事業概要及び目標 | 現状値（平成30年度） |
| | 幼稚園 年6回 小学校 年6回 中学校 年6回 |
| 開かれた幼稚園、小・中学校を目指し、学校だより等を定期的に発信するため、小・中学校のホームページ更新等を適切に行う。 | 目標値（令和元年度） |
| | 幼稚園 年10回以上の更新 小学校 〃 中学校 〃 |
| | 達成率（令和元年度） |
| | 幼稚園 100% 小学校 58% 中学校 71% 計 75% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

小・中学校については、平成30年3月にウェブページを公開し、令和元年度は年間10回以上の更新目標を掲げ、達成状況については、小学校で58%、中学校で71%となった。
幼稚園については、平成30年12月にウェブページを公開し、令和元年度は、すべての幼稚園で更新目標を達成した。

【達成状況】

| | 園・校数 | 達成園・校数 | 達成率 |
|-----|------|--------|------|
| 幼稚園 | 9 | 9 | 100% |
| 小学校 | 12 | 7 | 58% |
| 中学校 | 7 | 5 | 71% |
| | 28 | 21 | 75% |

評価

| | |
|---|---|
| B | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） |
| | C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） |
| | D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満） |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

各幼稚園から掲載依頼を受けて掲載を行う。各幼稚園及び小・中学校における活用の促進と定期的な更新が必要である。



更新目標が達成できなかった小・中学校に目標の達成を促すとともに、更新内容を統一し保護者等にホームページの公開を周知、閲覧の回数を増やす。

5 学識経験者の意見

ホームページの開設されている学校とそうではない学校、および、更新頻度の高い学校と低い学校の違いが大きいように感じられる。また、どこに（どのサーバに）各学校でホームページを開設しているのかが、分かりにくい。栗原市のサーバであったり、外部のサーバであったりするのは、適切ではないと考えられる。しかしながら、何らかの形で学校の情報公開がなされているので、コンテンツを整理しつつ、ホームページの構築を進めるとよりよいものになると考えられた。

| | | | | |
|---|---|--------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの確かな学力の育成 |
| | 具体的施策 | 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | | 担当課 学校教育課 |
| 1 目的 | | | | |
| 幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。 | | | | |
| 2 具体的事業 | | | | |
| 施策を構成する事業 | | | 目標指標 | |
| 3「教育研究センター事業」 | | | 研修受講者の満足度（「大変参考になった」と「参考になった」の合計）の向上 | |
| 事業概要及び目標 | | | 現状値（平成30年度） 99% | |
| 市立幼稚園、小・中学校の教職員の交流、研修、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、次代を担う人づくり＝「学府くりはら」の着実な実現を図るため研修内容の充実を図る。加えて、ICTを活用した授業を進めるため、担当特任教授を配置する。 | | | 目標値（令和元年度） 99%以上 | |
| | | | 実績値（令和元年度） 98.3% | |
| | | | 達成率 99.3% | |
| | | | ※センター研修に限ると 実績値（令和元年度） 99.3% | |
| | | 達成率 100% | | |
| 3 令和元年度の取組と自己評価 | | | | |
| 取組と成果 | | | | |
| <p>開所から6年目、「交流」「支援」「発信」の運営方針の下、事業の充実に努めた。</p> <p>○学力向上研究指定校への特任教授等の派遣と支援の充実 各校の児童生徒の学習に関する実態と教員の指導力の実態を把握しながら、学習指導に関する支援・助言の場を増やし、円滑かつ強力に進めた。</p> <p>○「校長研修会」の開催 全国的にも著名な東京の公立学校長を講師として招き、「学校改革」についての研修会を実施した。県内全ての市町村教育委員会にも案内を出し、栗原市外からも80名以上の校長の参加を得た。今後の学校教育の在り方について、大きなヒントを得た参加者が多く、大好評の研修会となった。</p> <p>○「ICT活用出前研修会」の実施 小・中学校合わせて14校（小11校、中3校）、延べ18回実施した。小学校においては、令和2年度から完全実施となる学習指導要領に位置付けられる「プログラミング教育」についての研修会が多く実施された。「プログラミング教育」について、教員の理解が進んだ充実した研修となった。</p> <p>出前研修も含めた全研修会の受講者数は延べ997名である。これは前年度と比べて25%の増加である。研修に対する満足度は、「大変参考になった」「参考になった」を合わせると、98.3%、センター内で実施した研修に限ると99.3%という結果であった。</p> | | | | |
| 評 価 | | | | |
| A | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） | | | |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） | | | |
| | C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） | | | |
| | D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満） | | | |
| 4 令和2年度に向けた課題・今後の方針 | | | | |
| 令和2年度から完全実施となる小学校3・4年生の「外国語活動」と5・6年生の「外国語」について、その指導力の向上を図るための充実した研修が必要である。 | | | ➡ | 令和2年度は、派遣事業の一つとして「外国語活動の充実に向けたアドバイザー派遣」をスタートさせる。英語教育担当の特任教授が、小・中学校からの申請に基づき、現場において授業づくり・授業実践等の支援・助言を行う。 |
| 5 学識経験者の意見 | | | | |
| <p>開所6年目を迎え、黎明期を経て教育研究センターとして充実してきた様子が拝見できる報告であった。「プログラミング教育」に代表されるように、令和2年度完全実施の小学校学習指導要領改訂に纏わる研修が効果を上げたということで、前年度の内に指導者側の不安を払拭する試みがなされたことは大変評価できる。令和2年度からは、外国語活動の充実に関する具体的な研修の記述が述べられており、コロナ騒動の影響が懸念されるところであるが、動き出した新しい学習指導要領の本国の教育施策に同期して、戦術的な対応ができてきているように考える。</p> <p>更なる研修の高みを期待すると、新しい学習指導要領に纏わる取組のみが突出しており、本来子ども達の学力向上で一番期待される、国語・算数（数学）についての研修報告や、教育課程や施策が変化に関係なくいつの時代にも要求される理科の研修についての報告が見当たらないのが残念である。多くの教育委員会で重要視されている国語・算数（数学）の研修、あるいは理科の研修においては、ICT活用研修会の中でも当然扱われたり、事例を示されるべきものと考えられる。</p> <p>優先順位を付けて研修されていることは思うが、喫緊のニーズを加味しながらバランスの良い研修を今後も続けて欲しいと期待する。</p> | | | | |

| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの確かな学力の育成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------------------|--|---|--|-----------------|----------------|----------------|--------|------|----|------|----|------|----|------|--------|------|-----|------|----|------|----|------|
| | 具体的施策 | 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | | 担当課 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 目的 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 具体的事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施策を構成する事業 | | | 目標指標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4「学力向上対策プロジェクト事業」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要及び目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>栗原市独自の学力向上研究指定校事業に基づく研究指定校により、小・中学校における質の高い学びの実現を目指す実践研究を推進し、その成果・課題の共有を図ることで児童生徒の学力向上を目指す。</p> | | | <p>「全国学力・学習状況調査」の平均正答率の改善 ※全国の平均正答率を100としたときの栗原市の平均正答率と比較し、その数値を改善する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 (平成30年度)</th> <th>目標値 (令和元年度)</th> <th>実績値 (令和元年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校 国語</td> <td>92.9</td> <td>95</td> <td>92.2</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>90.5</td> <td>95</td> <td>92.5</td> </tr> <tr> <td>中学校 国語</td> <td>96.4</td> <td>100</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>85.8</td> <td>90</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table> | | | 現状値 (平成30年度) | 目標値 (令和元年度) | 実績値 (令和元年度) | 小学校 国語 | 92.9 | 95 | 92.2 | 算数 | 90.5 | 95 | 92.5 | 中学校 国語 | 96.4 | 100 | 97.3 | 数学 | 85.8 | 90 | 86.7 |
| | 現状値 (平成30年度) | 目標値 (令和元年度) | 実績値 (令和元年度) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校 国語 | 92.9 | 95 | 92.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 算数 | 90.5 | 95 | 92.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 国語 | 96.4 | 100 | 97.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 数学 | 85.8 | 90 | 86.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 令和元年度の取組と自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取組と成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>教育委員会指定1年目の学力向上研究指定校6校が、授業づくりを中心とした校内研究を推進し、授業公開を各校3回ずつ実施した。その成果を、学力向上研究推進協議会（年4回）において市内各校の校長、研究主任等に広く伝えた。</p> <p>秋田県大仙市への「教育先進地派遣研修」に、小学校教諭8名、中学校教諭4名が参加し、1週間の研修を行った。派遣教員は、秋田の探究型授業を中心に、学級経営・学年経営や小中連携、地域との連携の在り方等を学び、所属校の教員の指導力向上や児童生徒の学力向上に励んだ。平成29年度からの派遣教員は合計31名となり、教員はそれぞれの所属校において授業改善の中心的立場となっている。</p> <p>全国学力・学習状況調査においては、中学校数学が依然として低い正答率である。そこで、市教育研究センターでは数学担当の特任教授が問題ごとに正答率と誤答例及び誤答の要因について分析し、各中学校に個別に情報を提供した。各校は、このことを踏まえて授業改善を進めた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 令和2年度に向けた課題・今後の方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>中学校数学の正答率が依然として低い。小学校からの基礎的・基本的な知識・理解に加え、数学的な見方・考え方についての学力向上が必要である。</p> | | | ➡ | <p>学力向上研究指定校の取組を広めたり、教育先進地での研修内容を具現化したりするなどして、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」をできるように、教員の指導力向上を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

5 学識経験者の意見

栗原市独自の研究指定校を設け、質の高い学びの実現を目指す取組の報告がいくつか挙げられ、積極的な教育事業の展開が見て取れた。実質的な学びの向上を達成するためには、事業の新しい展開に満足せず、その教育効果について有意差を測定・分析して改善することが望まれる。その場合、「全国学力・学習状況調査」の結果に一喜一憂するのではなく、研修体制による教育効果としてどの程度伸びたかをしっかり検証する必要があると考える。

例えば全国の平均正答率を100としたときの実績値は、小学校（算数）、中学校（国語・数学）では伸長したと言え、「令和2年度に向けた課題・今後の方針」で述べられた「中学校数学の正答率が依然として低い」ことを強調する必要はないと考える。強いて言うのであれば、その傾向（数学・算数が全国と比べて低い状況）は、仙台市を除いた宮城県全体、特に仙北地区に共通した課題と言える。ただし県南地区では、算数教育に力を入れた教育委員会の施策が見られ、その成果も数値として表れているが、必ずしも満足とは言えない。一方、仙台市の子ども達との学力差を埋めるべき宮城県の取組として、小学校では「算数チャレンジ」が実施され、栗原市でも多くの小学校が参加している実績がある。一昨年、算数チャレンジ2018で築館小学校が同点2位になってはいるが、決して県南の学校と互角に栗原市の児童が対応できているとは言えず、全体の底上げに加え、突き出た児童をさらに高みに育て上げるような姿勢もあって良いのではないかと考える。そのためには、先生方の意識改革と上位に位置する児童をほったらかしにするのではなく、キチンと指導してより高みに引き出していく努力が肝要であろう。

指導力の向上は、かならずしも学力に難がある子ども達を平均に上げる力量だけではなく、平均的な学力の子ども達や上位の子ども達をもキチンと育てて次のステージに引き上げていくことも大事で、それを実践できる教師は少ないと思われる。

秋田県大仙市の取組を大変参考にしているが、参加した各先生方が所属校で授業改善の中心的立場となっているというのであれば、その実践事例を栗原市の取組として、研究実践例として発表することが望ましい。学力向上研究指定校6校が、校内研究や授業公開、さらには学力向上研究推進協議会の場で発表しているが、身内感が否めない。発表の場は、県や市教委の研修のみならず他県で発表するのがエビデンスとして認知される機会となろう（教育系の学会や、全国もしくは地区ブロック教育大会など）。

| | | | | |
|------|-------|--------------------------------------|------|----------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの確かな学力の育成 |
| | 具体的施策 | 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

| | |
|--|--|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 5「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」 | 学び支援コーディネーター等配置事業に参加した小学生の満足度（勉強になったと回答した割合） |
| 事業概要及び目標 | |
| 家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施し、自主的学習習慣の形成を図り、学力向上を目指す。 | 現状値（平成30年度） 92% 目標値（令和元年度） 95% 達成値（令和元年度） 95.3% 達成率（令和元年度） 100.3% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

学び支援コーディネーター等配置事業の「放課後学習会」は、市内12小学校中8校（67%の小学校で実施）で実施した。それぞれの学習会に参加した児童は自ら目標を設定し、自分で目標を立てた自主学習に進んで取り組んでいた。参加した児童からは「来年もまた参加したい。」「新しい友達がたくさんできた。」等、学習に対して意欲的な感想が多く寄せられた。実施前後の調査から、全項目で県目標値よりも20%から25%程度上回る結果となり、事業の成果を確認することができた。また、他校の友達と積極的に交流したり、一緒に勉強したりする姿が見られ、互いに教え合う場面も見られた。事前に児童の実態を把握し、児童の実態に応じた支援に努めたことにより、学習会のアンケート項目の内、100%になった評価項目が30項目中12項目あった。

週末学習会や冬休み学習会は、インフルエンザ等の感染拡大防止のため、規模を縮小して実施する回があったため、前年度を下回った。

| 事業名 | 放課後学習会 | 週末学習会 | 夏休み学習会 | 冬休み学習会 |
|------------|--------------|-------------------|--------------------------|-------------------|
| 期間 | 6月～3月（のべ94回） | 6月～2月（計6回） | 8/8～8/10 | 12/26～12/28 |
| 場所 | 市内小学校8校 | 栗原文化会館及び市教育研究センター | 栗原市市民活動支援センター及び市教育研究センター | 栗原文化会館及び市教育研究センター |
| 対象者 | 小1～6 | 小3～6 | 小3～6 | 小3～6 |
| 参加者（のべ） | 8,769人 | 257人 | 270人 | 279人 |
| 全児童あたりの参加率 | 34.1% | 8.9% | 9.4% | 9.7% |
| 前年度の参加率 | 29.7% | 23.6% | 9.8% | 16.3% |
| 満足度 | 95.1% | 97.2% | 94.8% | 94.2% |

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

事業実施の周知を図るとともに、今年度で終期を迎えるため、事業の精査を図り、これまでの実績をつなげる方法を検討する必要がある。



社会教育課との連携により、放課後子ども教室や協働教育等で学び支援の持つ指導力と経験が生かされるようにしていく。

5 学識経験者の意見

「学力向上支援事業」の一環である「学び支援コーディネーター等配置事業」についての詳しい報告の記載があり、その効果についてアンケート結果から充実した取組であることが読み取れる。「学府くりはら塾」では、中学校1年生から3年生を対象にした夏休みの5日間、中学校3年生を対象に冬の3日間の企画であり、報告書以外の宮教大や他のHPから有意義な状況が伝わっている。今年度が終期を迎えるようであるが、学生ボランティアなどの積極的な登用を図るのが、Win-Winの関係を構築できる手段かと思われる。コロナ騒動で、普段にはないケアが必要であると予想されるが、連携大学や連携部署と密に連絡を取り合うことが大切と考える。

| | | | | |
|------|-------|--------------------------------------|------|----------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの確かな学力の育成 |
| | 具体的施策 | 学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

| | |
|---|------------------------------|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 6「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」 | 中学2年生の英語検定（I B A）の英検級レベル（割合） |
| 事業概要及び目標 | 現状値（平成30年度） 目標値（令和元年度） |
| <p>小学校外国語科の完全実施に伴い、中学年35時間及び高学年70時間に対応するため、ALTを活用した指導の充実を図る。また、JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。併せて、学校のクラブ設置を積極的に働きかける。</p> | 3級L v 13.0% 3級L v 12.0% |
| | 4級L v 26.0% 4級L v 25.4% |
| | 5級L v 60.0% 5級L v 61.5% |
| | 実績（令和元年度） 達成率（令和元年度） |
| | 3級L v 6.4% 3級L v 53% |
| 4級L v 24.1% 4級L v 94.9% | |
| 5級L v 68.6% 5級L v 111.5% | |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

小学校外国語活動については、ノンJET（民間への業務委託）のALT4人、JET（国の外国青年誘致事業）のALT8人、計12人を配置し、3・4年生が15時間程度、5・6年生が50時間程度の実践をしている。また、各幼稚園に英語の音楽CDを配布し、英語に慣れ親しむ機会を設けている。また、夏季休業中に市内小学生3・4年生と5・6年生を対象に「英語でチャレンジ」を実施。37名の児童が参加し、英語でゲームをしたり、人文字を作ったりと体験活動を通して、英語に慣れ親しむことができた。

小学校英語活動

| 事業名 | 期 日 | 会 場 | 対象・学年 | 参加人数 |
|-------------|----------|-------------|-------|-----------------|
| 英語でチャレンジ1・2 | 7月30日（火） | 栗原市教育研究センター | 3・4年 | 20人 |
| | 7月31日（水） | | 5・6年 | 12人 |
| 外国語活動・英語研修会 | 7月12日（金） | | 教員 | 小1名、中1名 悉皆研修 |

ALT配置状況

| | 小学校 | | 中学校 | |
|---------|-----|-------------------------------------|-----|----------------------------|
| | 校数 | 学校名 | 校数 | 学校名 |
| J E T | 2校 | 瀬峰、志波姫 | 7校 | 築館、若柳、栗駒、栗原南 栗原西、金成、志波姫 |
| ノンJ E T | 10校 | 築館、宮野、若柳、栗駒、栗駒南、 高清水、一迫、鶯沢、金成、花山 | — | — |

評 価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

小学校学習指導要領の改訂に伴い、小中連携、ALTの積極的な活用を図り、書く・読む・話す等、コミュニケーションを大切に授業づくりの実践に努める。



特任教授による各校巡回型の英語研修会を通して、小学校教員の指導力の向上とスキルアップを図る。

5 学識経験者の意見

「ことば」はcommunicationとthinkingのためのtoolである。日常生活で“使う”必要性和機会に恵まれることで獲得されていく。幼児期から児童・生徒期に至る発達のプロセスに即しながら、英語との出会い・触れ合い、そして活用する機会をますます充実させていくことを期待する。そのための人材確保・人材開発にも努めて欲しい。

| | | | | |
|------|-------|------------------------------|------|---------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 安全・安心な学校教育の推進 |
| | 具体的施策 | 自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校を目指し、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。

2 具体的事業

| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
|--|-----------------------------------|
| 7「地域と連携した防災訓練の実施」 | 防災マニュアルの最新状態への改善、見直しの割合(幼稚園・小中学校) |
| 事業概要及び目標 | 現状値(平成30年度) 90% |
| 地域と連携した防災訓練の必要性について、各園及び小中学校に働きかけ、自分の命は自分で守る教育を推進する。また、園・学校における危機管理意識を向上し、幼児児童生徒の命を守るための防災体制づくりを支援するため、防災マニュアルの改善を働きかける。 | 目標値(令和元年度) 95%以上の改善・見直しを目指す |
| | 達成率(令和元年度) 100% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

市防災主任研修会を開催し、地域自主防災をテーマに地域で児童生徒を見守る必要性について講話をいただいた。加えて、地域と連携した防災訓練の実施と平日頃より学校と地域が情報交換しておく必要について指導もいただいた。また、避難情報のレベル改訂に伴い、登校(登園)時、授業(保育)中、下校(降園)時に警報が発令された場合の対応について各園・各校で作成するよう共通理解を図った。そのため、台風第19号が来襲した際には、連絡体制の確認や垂直避難等改訂マニュアルに従って迅速に行動することができた。

その他にも市教頭会議で説明し、学校評議員会での話題や学校評価の点検項目にもするよう指示し、教職員で確認することにより、学校の実態に応じた防災マニュアルの作成を行うことができた。また、各校が新型コロナウイルス感染症の緊急マニュアルを作成し、感染症対策として、迅速に対応することができた。今後は、中学校区ごとの取組を大切に、幼小中連携のもと、地域住民を巻き込みながら、地域の実態に応じた防災マニュアルの改善を推進していきたい。

| | 実施 | % |
|-----|----|-----|
| 幼稚園 | 9 | 100 |
| 小学校 | 12 | 100 |
| 中学校 | 7 | 100 |

評価

| | |
|---|---|
| A | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) |
| | C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満) |
| | D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満) |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

自然災害や感染症等、これまでの想定では対応できないものが増えてきている。最新の情報や実践事例を提供していく必要がある。



幼稚園及び小中学校の防災主任に対して、最新の情報提供を心掛けていく。また、市教頭会議等で中学校区の情報交換する場を設定する。

5 学識経験者の意見

常に自然災害を意識した訓練がなされているようであり、台風19号襲来の際に、その効果が現れていることは、特筆する点である。また、栗原市は非常に面積が広く、かつ各地域における災害発生内容も異なることも考えられる。また、新型コロナウイルス感染症対策においても、地域との協働により、各地域の特徴にあった対策を検討する必要があると考えられた。

| | | | | |
|------|-------|-----------------------|------|---------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの豊かな心の醸成 |
| | 具体的施策 | いじめを許さない学校づくりの推進 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。

2 具体的事業

| | |
|--|-----------------------------------|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 8「命を大切にできる教育」の実践 | 命を大切にできる教育の授業実施数 (年間2時間以上の実施校) |
| 事業概要及び目標 | 現状値(平成30年度) ※(達成率) |
| いじめの未然防止と早期発見に努めるため、自他の命を大切にし、自分自身の良さを見つめる命を大切にできる授業づくりを推進する。また、確実な実施に向けた授業支援と学校評価項目への位置付けにより、進捗状況の管理に努め、自他の命を大切にできる児童生徒の育成を目指す。 | 小学校 10校/12校 (83.3%) |
| | 中学校 5校/7校 (71.4%) |
| | 目標値(令和元年度) |
| | 小学校 12校/12校 (100%) |
| | 中学校 7校/7校 (100%) |
| | 実績値(令和元年度) |
| | 小学校 12校/12校 (100%) |
| | 中学校 7校/7校 (100%) |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

「命を大切にできる教育」の確実な授業づくりを推進するため、年度当初に各教科・領域等の年間指導計画へ確実に位置付けるよう各校へ依頼した。各校では、計画にもとづき各学年、年間2時間以上の「命を大切にできる教育」を実践することができた。

各校の着実な実践により、令和元年度実施のQ-U調査の結果、栗原市の平均と全国平均とを比較すると、全ての学年において良好な結果となった。また、全ての学年において「親和的」な学級が増えている。今後とも、学校全体が一丸となって確実な実践をしていけるよう指導助言し、各学校の実態に応じた取り組みを積み重ねていく必要がある。また、心のケアハウスやスクールソーシャルワーカー等、関係機関との積極的な連携により、いじめや不登校、別室登校等の未然防止に組織的に取り組んでいけるよう環境整備に努める。特に、下表の中学校の「あてはまらない」と回答した1.7%の分析について考察し、対応していく。

| いじめはいけないことだと思うか。(小学生) | | | | いじめはいけないことだと思うか。(中学生) | | | |
|-----------------------|------|------|------|-----------------------|------|------|------|
| | 全国 | 県 | 栗原市 | | 全国 | 県 | 栗原市 |
| あてはまる | 85.0 | 86.1 | 87.1 | あてはまる | 78.3 | 78.5 | 85.8 |
| どちらか言えばあてはまる | 12.1 | 11.2 | 10.9 | どちらか言えばあてはまる | 16.8 | 16.6 | 10.3 |
| どちらか言えばあてはまらない | 2.0 | 1.9 | 1.8 | どちらか言えばあてはまらない | 3.6 | 3.5 | 2.1 |
| あてはまらない | 0.8 | 0.8 | 0.2 | あてはまらない | 1.3 | 1.3 | 1.7 |

評価

| | |
|---|---|
| A | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) |
| | C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満) |
| | D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満) |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

いじめの内容が複雑化、長期化するケースが数例見られる。関係機関を含む、組織での早期発見と早期対応が必要である。

➡

Q-U調査の分析により、よりよい学級づくりについての研修会を実施する。また、月例の報告の際に、いじめの未然防止と早期発見に努めているかを確認できるようにする。

5 学識経験者の意見

石巻市立大川小学校津波訴訟が遺族側勝訴で確定して以降、学校園における防災・減災教育計画については実効性が求められるようになった。また、「命を大切にできる教育」については人権教育の一環として捉え、単なる「いじめ予防」に矮小化することなく、命(life)・生活(life)・人生(life)を大切にできる教育を推進していくことを期待する。

| | | | | |
|------|-------|--|--------------|---------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの豊かな心の醸成 |
| | 具体的施策 | 一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進 | 担当課 学校教育課 | |

1 目的

一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。
また、豊かな心と主体的・自立的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指し、児童生徒に教育的ニーズに応じた支援を実施する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

| | |
|----------------------------------|------|
| 9「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」「心のケアハウス事業」 | 目標指標 |
|----------------------------------|------|

事業概要及び目標

| | |
|---|--|
| <p>学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができる体制を整備する。また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置する。さらに心のスーパーバイザー、学習サポーター、訪問指導員を各1名配置し、学校不適応傾向の児童生徒へ心の居場所づくりや学習の場を保障し、登校に向けての支援を行う。</p> | <p>心のケアハウス事業における児童生徒への支援による利用者の教室復帰（別室登校も含む）の割合</p> <p>現状値（平成30年度） ※令和元年度新規事業 目標値（令和元年度） 利用者の1割の復帰を目指す 実績値（令和元年度） 教室復帰した児童生徒数 利用者の2割（10名中2名）</p> |
|---|--|

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

心のケアハウス設置に伴い、けやき教室と連携しながら、不登校及び別室登校等、不登校傾向の児童生徒の実態に応じた支援に努めた。特に、スクールソーシャルワーカーと該当家庭との連携により、不登校傾向の児童生徒の心の居場所づくりと学習支援を実施し、児童生徒の自立支援を図った。また、学校及び適応指導教室（けやき教室）との連携により心のケアハウスに通所できるようになった児童生徒に対し、けやき教室通級と学校復帰に向けた支援を行った。
また、市の教育相談員、心のケアハウス、けやき教室に意識的にスクールソーシャルワーカーを派遣し、別室登校の児童生徒に対して素早く対応できるようにした。このような取組により、不登校傾向の生徒が心のケアハウス、けやき教室で学習後、教室復帰し、希望する高校への進学を果たした。

| 事業名 | 対応日時及び時間 | 対応状況 | |
|---------|------------------|------------------------------------|--|
| 教育相談 | 火・水・金 8:30~17:15 | 来庁相談：4件、電話相談：15件、学校訪問相談：35件、その他33件 | |
| けやき教室 | 月～金 8:30~15:30 | 開所日数 | 199日 |
| | | 通所人数 | 小学6年生 2人 中学1年生 2人 中学2年生 8人 中学3年生 2人 合計 14人 |
| | | 体験通所 | 2人 2人 5人 1人 10人 |
| | | 合計 | 4人 4人 13人 3人 24人 |
| 心のケアハウス | 月～金 8:30~16:30 | 来所支援 | 心のサポート 2名、学びサポート 2名、保護者面談 12名 |
| | | 学校支援 | 心のサポート 8名、学びサポート 8名、保護者面談 1名 |
| | | 家庭訪問支援 | 心のサポート 0名、学びサポート 0名、保護者面談 0名 |

評価

| | |
|---|---|
| A | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） |
| | C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） |
| | D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満） |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

教育相談、心のケアハウス、けやき教室の機能を一つにまとめた教育支援室（仮称）の設置により、増加している不登校及び別室登校の児童生徒の対応に取り組んでいく必要がある。

➡ 教育支援室（仮称）の設置に向け、各担当と連携する。また、児童生徒の実態に応じた対応が迅速に行えるよう関係機関との連携が行えるよう整備する。

5 学識経験者の意見

心のケアハウスが中心となって、支援事業をめぐる情報収集・共有、学習支援や自立支援など、連携・協働が機能している。指導員や専門職員（スクール・ソーシャルワーカー等）によるPDCAが有効に機能するとともに、ICTを活用した事業の効率化・迅速化を図ることで、支援の機会を逃さない対応が可能になると思われる。

| | | | | |
|------|-------|-----------------------|------|-------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり | 基本目標 | 子どもたちの心身の健康と体力の向上 |
| | 具体的施策 | 健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実 | | 担当課 学校教育課 |

1 目的

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

10「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」

全国体力・運動能力調査の総合評価値比較
現状値（平成30年度）

小学生 男52.69 女56.85

中学生 男41.40 女50.25

目標値（令和元年度）

小学生 男54.00 女58.00

中学生 男43.00 女52.00

実績値（令和元年度）

小学生 男51.78 女56.22

中学生 男40.85 女49.84

達成率

小学生 男95.9% 女96.9%

中学生 男95.0% 女95.8%

事業概要及び目標

すべての小・中学校で実施している「全国体力・運動能力調査」の結果を分析する。その結果から、各校の努力事項を明確にし、課題解決に向け、特定の種目に特化した取組を実施することにより、体力向上が図れるよう働きかける。

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

各小・中学校では、児童生徒の体力向上の課題を分析し、小・中学校とも各校の実態に応じた課題を決め、児童生徒の体力向上に取り組んだ。特に、体育科の授業づくりにおいて、振り返り活動や児童生徒同士で話し合う活動、教え合う活動を積極的に取り入れるなどの工夫が見られた。また、小・中学校では、運動が苦手な児童生徒への支援を工夫し、運動に興味を持たせるような環境構成を工夫していた。各学校には、各種研修会や会議で、ゲーム機と生活習慣等の関連について、情報提供をするように努めた。令和元年度「体力・運動能力調査」では、平成30年度より小学5年女子、中学2年女子で県平均を上回った。小学校では男女とも握力、中学校では男女とも握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳びが全国平均を上回った。課題は小・中学校とも走力と全身持久力となった。

(1)小学5年生

| 種目等 | 握力(kg) (筋力) | | 上体起こし(回) (筋持久力) | | 長座体前屈(cm) (柔軟性) | | 反復横跳び(回) (敏捷性) | | 20mシャトル(回) (全身持久力) | | 50m走(秒) (走力) | | 立ち幅跳び(cm) (跳躍力) | | ソフトボール(m) (投力) | | 総合評価 | |
|-------|----------------|------|--------------------|-------|--------------------|-------|-------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------|------|--------------------|-------|-------------------|-------|-------|-------|
| | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 |
| 全国男子 | 16.37 | 0.61 | 19.80 | -1.31 | 33.24 | -0.13 | 41.74 | -0.12 | 50.32 | -4.77 | 9.42 | 0.32 | 151.45 | -3.19 | 21.61 | -0.42 | 53.61 | -1.83 |
| 栗原市男子 | 16.98 | - | 18.49 | - | 33.11 | - | 41.82 | - | 45.55 | - | 9.74 | - | 148.26 | - | 21.19 | - | 51.78 | - |
| 全国女子 | 16.09 | 0.96 | 18.95 | -0.25 | 37.62 | -0.42 | 40.14 | 1.37 | 40.79 | 0.69 | 9.64 | 0.09 | 145.68 | 1.39 | 13.61 | 1.11 | 55.59 | 0.63 |
| 栗原市女子 | 17.05 | - | 18.7 | - | 37.20 | - | 41.51 | - | 41.48 | - | 9.73 | - | 147.07 | - | 14.72 | - | 56.22 | - |

(2)中学校2年生

| 種目等 | 握力(kg) (筋力) | | 上体起こし(回) (筋持久力) | | 長座体前屈(cm) (柔軟性) | | 反復横跳び(回) (敏捷性) | | 持久走(秒) (全身持久力) | | 20mシャトル(回) (全身持久力) | | 50m走(秒) (走力) | | 立ち幅跳び(cm) (跳躍力) | | ハンドボール(m) (投力) | | 総合評価 | |
|-------|----------------|------|--------------------|------|--------------------|------|-------------------|------|-------------------|-------|-----------------------|-------|-----------------|------|--------------------|-------|-------------------|-------|-------|-------|
| | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 | 平均値 | 比較 |
| 全国男子 | 28.65 | 2.24 | 26.96 | 0.11 | 43.50 | 1.69 | 51.91 | 0.05 | 398.98 | 18.32 | 83.53 | -6.13 | 8.02 | 0.10 | 195.03 | -5.03 | 5.75 | -0.70 | 41.69 | -0.84 |
| 栗原市男子 | 30.89 | - | 27.07 | - | 45.19 | - | 51.96 | - | 417.30 | - | 77.40 | - | 8.12 | - | 190.00 | - | 5.05 | - | 40.85 | - |
| 全国女子 | 23.79 | 0.66 | 23.69 | 0.52 | 46.32 | 0.06 | 47.28 | 1.04 | 289.82 | 10.30 | 58.31 | -1.03 | 8.81 | 0.09 | 169.9 | -1.15 | 12.96 | -0.85 | 50.22 | -0.38 |
| 栗原市女子 | 24.45 | - | 24.21 | - | 46.38 | - | 48.32 | - | 300.12 | - | 57.28 | - | 8.9 | - | 168.75 | - | 12.11 | - | 49.84 | - |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

新型コロナウイルスにより、児童生徒の運動不足が懸念される。家庭や休み時間でも気軽にできる運動を紹介していく必要がある。



研修会等において、各学校の効果的な取組を紹介する場を設定する。また、特色ある実践事例を各校に紹介し、喜んで運動に取り組む児童生徒を育成する。

5 学識経験者の意見

宮城県全般と同じような傾向がみられ、全国平均に比し、若干数値が低く示されていた。おそらく学校間の格差も見られているのではないかと解される。このようなことから、市全体としての取組および目標に加え、各学校における個別の取組も体力・運動能力の向上に必要であろう。県から示された目標値（参考）なども用いることもできると考えられた。また、特に令和2年度は新型コロナウイルス対策もあり、運動を実施することの難しさがある。そのような中で、少しでも良いので子ども達の運動の機会が提供されることを期待したい。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯にわたる学習機会の提供 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

乳幼児、小・中学生がいる家庭において、子どもが社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られるように、保護者等のしつけや子育てに関する教育力が向上するよう学ぶ機会を提供する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

11 「家庭教育学級」「家庭教育講座」

事業概要及び目標

家庭教育学級支援（助成）事業等の活用校数

幼児、児童及び生徒の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級への講師派遣の支援（助成）を行うとともに、新に講師派遣型の事業を行い学校等での効率的な事業開催を支援する。

現状値（平成30年度） 35校中13校
目標値（令和元年度） 34校中15校
実績値（令和元年度） 34校中15校
達成率 100%

他制度を活用した家庭教育学級も実施されていることから、本事業が認識されているか確認を行う。

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

年度当初に、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校（以下「学校等」という）に事業の周知を行い、学校等が保護者を対象に家庭教育学級を実施した際の講師謝礼の助成を継続して行った。さらに、保育所長会議などでの事業周知や助成事業の活用が少ない学校等に直接説明を行った。周知活動のなかで、他の予算や助成制度を活用して家庭教育に関する事業を実施していることを確認した。

また、今年度から新規に講師派遣型事業を実施し、中学校1校がこの事業を活用し213人が参加した。

家庭教育学級・家庭教育講座実績

| | 平成29年度 | | | | 平成30年度 | | | | 令和元年度 | | | | (参考) 他事業活用実績 | | | |
|------|-----------|--------|-----|------------|-----------|------|----|------------|-----------|------|----|------------|-----------------|----|----|----|
| | 保育所 | 4所 | 4回 | 20校 26回 | 保育所 | 3所 | 3回 | 13校 13回 | 保育所 | 3所 | 3回 | 15校 15回 | | | | |
| 開催回数 | 幼稚園 | 6園 | 7回 | | 幼稚園 | 4園 | 4回 | | 幼稚園 | 4園 | 4回 | | 小学校 | 6校 | 6回 | 9回 |
| | 小学校 | 9校 | 14回 | | 小学校 | 5校 | 5回 | | 小学校 | 6校 | 6回 | | 中学校 | 2校 | 2回 | 6回 |
| | 中学校 | 1校 | 1回 | | 中学校 | 1校 | 1回 | | 中学校 | 2校 | 2回 | | | | | 6回 |
| | | | | | | | | | | | | | | 4回 | | |
| 参加人数 | 保育所 | 223人 | | 3,912人 | 保育所 | 227人 | | 1,498人 | 保育所 | 268人 | | 2,035人 | / | | | |
| | 幼稚園 | 1,057人 | | | 幼稚園 | 600人 | | | 幼稚園 | 760人 | | | | | | |
| | 小学校 | 2,445人 | | | 小学校 | 518人 | | | 小学校 | 594人 | | | | | | |
| | 中学校 | 187人 | | | 中学校 | 153人 | | | 中学校 | 413人 | | | | | | |
| 助成金額 | 265,000 円 | | | | 151,000 円 | | | | 185,728 円 | | | | | | | |

※令和元年度の参加人数のうち「講師派遣型事業」による参加人数は213人

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

多くの学校では家庭教育学級を実施しており、この講師謝礼助成制度以外の制度も活用されていることを確認した。（市内34校中33校が家庭教育学級を実施していた。）



学校等において家庭教育学級は長年行われており、その事業支援のひとつとして本事業が位置付けられている。引き続き本事業を実施し開催を支援する。

学識経験者の意見

目標値はクリアしたことを契機に、市内34学校等での完全実施を目指して欲しい。幼稚園・保育所・小学校・中学校、それぞれ子ども達との関わりを巡る課題も異なる。地域差も考慮に入れる必要がある。保護者のニーズに応えるテーマ・講師の選定は容易ではないが、魅力ある内容を提供することで事業の活性化を図って欲しい。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯にわたる学習機会の提供 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

12「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

事業概要及び目標

ジュニア・リーダーに関する事業開催数

地域少年集団の育成と活動の支援体制を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を行う。また、地域で開催されているお祭り、子ども会活動、社会教育事業等への参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。ジュニア・リーダー関連事業は、青少年育成団体が主体となり進めているが、団体の事業実施の状況把握を行い支援を行う。

| | |
|--------------------------|-------|
| 現状値（平成30年度） | 7事業 |
| 目標値（令和元年度） | 8事業 |
| 実績値（令和元年度） | 7事業 |
| ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2事業中止 | |
| 達成率 | 87.5% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

ジュニア・リーダーの育成を継続して実施することとし、事業開催の準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業があった。一方で数年不参加となっていた東北大会やリーダー交流会に参加することができた。

また、ジュニア・リーダー関連事業の主体である青少年育成団体とこれからのジュニア・リーダー育成のための取組みについて打合せを行った。他自治体の取組みや実施体制等について情報を収集したところ、児童・生徒にとって身近な各公民館が主体となり募集し事業を実施しているとのことであり、本市との体制の違いを認識した。

ジュニア・リーダー関連事業（実施7事業）

| 事業名 | 期 日 | 参加人数 | うちJL |
|------------------------------|----------------------|------|------|
| 第46回東北地区ジュニア・リーダー大会 in 宮城 | 8月 2日(金)～ 4日(日) | 5人 | 5人 |
| みやぎジュニア・リーダー交流会 | 12月 7日(土)～ 8日(日) | 3人 | 3人 |
| せみね合宿通学 | 9月24日(火)～27日(金) | 15人 | 3人 |
| くりこまハロウィンパーティー | 11月24日(日) | 38人 | 4人 |
| かなりクリスマス子ども祭り | 12月 8日(日) | 204人 | 2人 |
| せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー | 12月15日(日) | 100人 | 8人 |
| 築館ジュニアリーダー人形劇まつり | 12月14日(土) | 52人 | 9人 |
| ジュニア・リーダー初級研修会 | 中止(新型コロナウイルス感染症拡大防止) | — | — |
| ジュニア・リーダーフェスティバル | 中止(新型コロナウイルス感染症拡大防止) | — | — |
| 合 計 | | 417人 | 34人 |

(平成30年度は8事業実施し参加人数471人)

※JLは従事者数

ジュニア・リーダー数 令和元年度 24人(新規加入2人) 平成30年度 41人

評 価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダーの活動を周知し、数年後にジュニア・リーダーの対象年齢になる児童も視野に入れて事業を計画する必要がある。併せて、現在のジュニア・リーダーの社会貢献の場を提供する。



青少年育成団体と協力し、ジュニア・リーダーが活動しやすい時期を考慮し、「ジュニア・リーダーと遊ぼう」等の企画をこれまでより回数を増やせるよう調整する。また、募集活動が低迷している地区は新規の募集方法を検討する。

5 学識経験者の意見

新型コロナウイルス感染拡大防止のため社会教育活動を十分に展開できない現状である。こうした状況は今後も続くことが危惧される。これまで開拓・育成してきた人材や活動を先々に繋げるためにも、オンラインによるミーティングやイベントの実施体制整備、記録やノウハウのデジタル化等、事業の継承発展に資する手だてを講じて欲しい。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯にわたる学習機会の提供 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

13「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等

参加人数

現状値（平成30年度） 1,631人

参考値（3カ年平均） 1,355人

目標値（令和元年度） 1,400人

実績値（令和元年度） 1,402人

※新型コロナウイルス感染症
拡大防止のため2月29日以降
は事業中止

達成率 100.1%

事業概要及び目標

青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体との共催による事業を実施する。また、各種事業に、ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの活用を進め、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者育成の一翼を担う。

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、成長過程での情操教育の一環として、教育センターで関係団体と連携し青少年を対象とした事業を開催した。まなびっこ、わんぱく塾は親子での参加の活動もあり家庭教育の一翼を担っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業もあるが、目標を達成することができた。

| 事業名 | 期日・期間 | 対象 | 参加人数 | 連携団体 |
|--------------------|-----------------------|-----------------------------------|----------------------|---|
| 少年体験教室事業（まなびっこ）※ | 7月～1月（4回） | 築館・志波姫地区小学生 | 46人 | 築館・志波姫教育センター、若柳・金成教育センターの連携事業 （3月は感染症防止のため中止） |
| 少年体験教室事業（わんぱく塾） | 7月～2月（5回） | 若柳・金成地区小学生 | 116人 | |
| 第40回少年の主張栗原大会 | 7月10日（水） | 中学生 | 各校代表 8人 | 青少年のための栗原市民会議（聴講：210人） |
| あきる野市・栗原市友好親善交流事業 | 7月30日（火） ～ 8月1日（木） | 生徒会交流：市内中学生 部活交流：栗駒中（バドミントン部員） | 栗原市 34人 あきる野市 37人 | 市内中学校 |
| かななりクリスマス子ども祭り | 12月 8日（日） | 児童、保護者、一般市民 | 204人 | 金成地区子ども会育成会 |
| 風あげ大会 | 2月 8日（土） | 高清水、瀬峰地区市民（親子） | 32人 | 青少年のための栗原市民会議高清水地区会 |
| 図書館でのおはなし会 | 4月～2月（土） | 幼児、小学生 | 504人 | 読み聞かせボランティア「ひなたぼっこ」、「おはなしやまぼうし」（2月29日以降は感染症防止のため中止） |
| 子ども陶芸教室 | 5月～9月（5回） | 小学生以上 | 41人 | 栗駒・鶯沢教育センター |
| 作って飛ばそう！ペットボトルロケット | 8月10日（日） | 一迫地区小学生 | 9人 | 青少年のための栗原市民会議一迫地区会 |
| カブトムシ相撲大会 | 8月10日（日） | 小学生 | 15人 | 青少年のための栗原市民会議高清水地区会 |
| せみね合宿通学 ※ | 9月24日（火） ～ 27日（金） | 瀬峰地区小学4年～6年生 | 15人 | せみね合宿通学実行委員会 |
| 2019栗駒子どもまつり | 11月 2日（土） | 市内小学生等 | 268人 | 青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会 |
| 2019いちさはさま子どもまつり ※ | 12月 9日（日） | 一迫地区小学生 | 73人 | 一迫地区子ども会育成親の会連合会 |
| 計 | | | 1,402人 | |

※はジュニア・リーダーが運営に関わった事業

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

地区毎に事業は実施しているが、事業数、規模、開催形態（イベント型、体験型）が異なり、事業効果も地区で差がある。



地区間の事業の差を解消するため、「子どもまつり」などの地区全体とした事業を行っていない地区に対し、他の事業や関係機関との共同開催も視野に入れた実施を検討する。

5 学識経験者の意見

社会教育の一環としての、上記事業の他に様々な企画を実施し、3月の新型コロナウイルス対策による行事の停止を余儀なくされたにも関わらず目標値を達成したことは十分評価に値すると考える。

一方、課題・今後の方針で述べているように、「事業効果」については十分検証する必要性を感じさせられた。地域によるイベント規模や形態の差異は、一概に比較することがそぐわないものもあるかもしれないが、地域のボランティア活動だけでなく市税の投入がなされているのであれば、必ず検証する必要がある。特に、一番達成率に貢献した図書館でのおはなし会は、3密を避けるために新型コロナウイルス対策でかなり影響を受ける事業と予想できる。特定の地域からICTを活用した遠隔行事に参加する機会を設けるなど、時世に応じた新しい企画を行ったり、既に導入しているICTの積極的な運用機会を模索するなどを期待する。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯にわたる学習機会の提供 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

14「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）

参加人数

事業概要及び目標

地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図るとともに、参加の状況に合わせサークル活動へ移行できるよう支援する。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。

| | |
|-------------------------------------|--------|
| 現状値（平成30年度） | 1,693人 |
| 参考値（3カ年平均） | 1,514人 |
| 目標値（令和元年度） | 1,500人 |
| 実績値（令和元年度） | 986人 |
| ※新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため3月は事業 中止 | |
| 達成率 | 65.7% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

教育センターごとに、ライフステージに合わせた事業を実施した。継続して実施している事業が多いが、事業形態を見直したり、講座内容をニーズに合わせて変更するなど工夫して事業を実施した。開催形態を見直し、3事業を参加者主体型事業へ移行したことにより事業数、参加人数が減少した。また、3月の開催予定の講座において参加人数約200人を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止することとなり、全体の参加者数は伸びなかった。

（令和元年度）

| 事業の種類 | 事業名 | 延べ参加人数 |
|--------------------|---|--------|
| シニアセミナー （60歳以上） | アクティブカレッジ、リフレッシュカレッジ（※）、花山寿康大学、松葉大学 | 250人 |
| レディースカレッジ | 女性教室 | 64人 |
| 市民セミナー | いちごもぎ取りノルディックウォーキング、消しゴムはんこ講座、神楽教室（※）、園芸講座、手芸講座、こども陶芸教室（※）、時事川柳・江戸風俗教室（※） | 672人 |
| 合計 | | 986人 |

（※）は、講師が65歳以上であった事業

昨年度に実施した3事業は、参加者主体型事業へ移行（陶芸教室120人、写経講座105人、英会話教室137人）

評価

C

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

これまで開催していた事業を参加者主体型事業へ移行させ自主的に開催できるようにし、移行した場合は、次の市民ニーズにあった事業展開を考える必要がある。



高齢者や幼児・児童を対象とした事業は、参加者主体型事業への移行は難しいが、一般成人を対象とした事業については、計画的に参加者主体型事業へ移行するように指導する。

5 学識経験者の意見

複雑化する社会においては生涯学び続ける事が必要とされており、そうした場を市民に提供する当該事業の意義は大変大きい。そうした中で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって目標値には届かなかったが、今後は、市民のニーズや新しい生活様式等を踏まえ、オンラインによる講習実施も含めて検討を行うなど、事業の更なる発展を期待したい。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯にわたる学習機会の提供 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

自分たちが暮らす栗原市について学習ができ、日常生活を快適なものにすることができるよう、暮らしに関わる情報や健康等について学べる市民大学を開設する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

15「くりはら市民大学」

事業概要及び目標

講座の内容に関する満足度

市内在住の18歳以上の方(学生、前年度の修了者は除く)を対象に、「くらし」や「健康」などの各テーマを設定し、外部講師による講座等を開設する。定員は100名程度とし、継続した学びを推進するため、全7講座のうち5回以上の講座を受講した方に修了証書を交付する。

| | |
|-------------|------|
| 現状値(平成30年度) | — |
| 目標値(令和元年度) | 80% |
| 実績値(令和元年度) | 88% |
| 達成率(令和元年度) | 110% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

様々なテーマに応じた講師をお招きし、第2期となる「くりはら市民大学」を開催した。毎回、受講者へのアンケートを実施した結果、講座内容等に高い満足度を得ている。第5回講座(基調講演)については、台風の影響で10月の開催を延期し、11月に振替講演を行うことができた。

令和元年度「くりはら市民大学」開催状況

| 区分 | 開催日 | 講師 | 内容 | 出席状況 | | | 満足度 |
|----------|-------------------------|---|---|------|-----|------|------|
| | | | | 出席 | 欠席 | 合計 | |
| 第1回 | 6月22日(土) | 栗原ドリームアンバサダー 菅原 美話 氏 | 演題「五感で活き生きコミュニケーション話術」 | 102人 | 8人 | 110人 | 87% |
| 第2回 | 7月6日(土) | 栗駒山麓ジオガイド | 移動研修「栗駒山麓ジオパーク」 ・移動研修は3コースに分かれて開催し、ジオパークの魅力や地域の成り立ち、歴史・文化を伝えていただいた。 A 栗駒荒砥沢コース B 細倉釜山コース C 伊豆沼・くりでんコース | 97人 | 13人 | 110人 | 82% |
| 第3回 | 8月24日(土) | 時事川柳「創琳」主宰 千葉 朱浪 氏 | 演題「川柳と世相」 | 92人 | 18人 | 110人 | 81% |
| 第4回 | 9月7日(土) | 東京藝術大学 学長特命(社会連携担当) 社会連携センター長 教授 佐野 靖 氏 | 演題「なつかしき日本のうた～そのルーツと音楽的魅力を探る～」 | 87人 | 23人 | 110人 | 94% |
| 第5回 | 10月12日(土) ⇒11月30日(土) | フリーアナウンサー 生島 ヒロシ 氏 | 演題「心と体と財布の健康」 | 88人 | 22人 | 110人 | 95% |
| 第6回 | 11月16日(土) | アナウンサー・朗読家 渡辺 祥子 氏 | 演題「言葉の力、生きる力」 | 83人 | 27人 | 110人 | 100% |
| 第7回 | 1月18日(土) | アサヒビール株式会社 東北統括本部 営業企画部 副主任 土合 里沙 氏 | 演題「気軽にワインを楽しもう！」 | 98人 | 12人 | 110人 | 76% |
| (満足度平均値) | | | | | | | 88% |

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

開講途中からの受講申込みの相談や、修了生からの再受講の要望があるため、そういった学習意欲のある方を受け入れる手法を検討する。



受講希望者を受け入れるため、開講中の再募集など柔軟な対応が図れるか等検討する。

5 学識経験者の意見

くりはら市民大学は、多くの市民に支持されているのが報告から窺える。定員を110名に定めて満足度が平均88%と、ほぼ9割の参加者の満足感を得て帰路につく様子から、大変有意義な行事と言える。その中で秋に設けられた市民大学の出席率が80%以下となっており、開講途中からの受講申込み者や、事前申込みで漏れた市民に対して10%程度のキャパシティを提供しても良かったのではないかとと思われる。出席率が最大でも93%であったことを考えると(前年度のデータと見比べる必要も考えられるが)、5%程度の参加者を多く募っても構わないのではないかと考えられる。もちろん、座席指定の場合は、キャンセル待ちチケットという形で5%程度、整理券を多く発行するという方法も考えられる。いずれにせよ、盛況であるが故の更なる対策を講じることも考えられる。

この意見を記載するタイミングでは既に今年度のこの行事は全て中止と発表されているのがHPで確認できている(「【新型コロナウイルス感染症関連】市主催イベント等の中止・延期等に関する情報(7月7日～)」2020.7.26閲覧)。ICT活用による遠隔講義の実施も期待できただけに(会場を分散し、入場人数を絞り、オンラインで講義を行う等)残念である。

| | | | | |
|------|-------|------------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

16「協働教育推進事業」

事業概要及び目標

協働教育各種推進事業への参加人数

地域住民がボランティアとして子どもたちの学習及び体験活動等を支援する学校支援ボランティア推進事業や地域活動支援事業などを実施し、家庭・地域・学校が連携・協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。また、地域、学校及び教育委員会を繋ぐ組織として期待されている「地域学校協働本部」の設置について検討する。

| | |
|-------------|--------|
| 現状値（平成30年度） | 2,599人 |
| 参考値（3カ年平均） | 2,585人 |
| 目標値（令和元年度） | 2,500人 |
| 実績値（令和元年度） | 2,057人 |
| 達成率 | 82.3% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

地域住民の協働教育の意義と重要性の理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施した。今年度は、小学校では昨年度同様指定校を含む全12校で、中学校では継続した啓発により全7校中6校で実施した（中学校では指定校が1校の増となった。）。放課後子ども教室従事者を育成するため、1校で実施した。しかし、地域活動及び学校支援活動において、取り組んだ事業によって参加者が減少したため、目標値を達成することができなかった。「地域学校協働本部」の整備にむけて、県から派遣された教育ファシリテーターのヒアリングも受け検討した。

令和元年度地域活動事業実施状況

| 事業名 | 期日 | 対象 | 参加人数合計 |
|--------------|---------------|-----------------------|--------|
| 第1回協働教育推進委員会 | 12/11 | 協働教育推進委員 ほか | 20人 |
| 北部管内協働教育研修会 | 8/8、11/28 | 幼稚園、小中学校教職員及びPTA役員 ほか | 82人 |
| 地域活動 | 12/14 | 築館・志波地区 | 52人 |
| | 12/8、12/25 | 若柳・金成地区 | 22人 |
| | 11/24 | 栗駒・鶯沢地区 | 38人 |
| | 12/15 | 瀬峰・高清水地区 | 100人 |
| | 1/7、1/18~2/16 | 一迫・花山地区 | 19人 |
| 小計 | | | 603人 |

令和元年度学校支援事業実施状況

| 事業名 | 期日 | 対象 | 参加人数合計 |
|-----------------|----|---|--------|
| 学校支援活動（推進指定校） | 通年 | 高清水小（30）、志波姫小（34）、花山小（183）、若柳中（18）、栗駒中（56） | 381人 |
| 学校支援活動（推進指定校以外） | 通年 | 築館小（128）、宮野小（53）、若柳小（50）、栗駒小（134）、栗駒南小（318）、一迫小（69）、瀬峰小（102）、鶯沢小（8）、金成小（51）、築館中（57）、栗原西中（36）、栗原南中（20）、金成中（45） | 1,073人 |
| | | 小計 | 1,454人 |
| | | 合計 | 2,057人 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

教育委員会内部の体制の在り方について検討を重ねた。地域と学校及び教育委員会をつなぐ推進体制（地域学校協働本部）の整備が必要である。



事業に取り組む教育委員会の体制をつくる。さらに、地域や学校と協議を進め、連携・協働する仕組みを確立する。

5 学識経験者の意見

地域住民のボランティア活動の難しさが指標として現れているように感じる。市内全ての小学校で実施できたという実績と中学校では7校中6校で実施できたというのは、誇るべきである。しかし、参加人数の目標値に遠く及ばない結果（ほぼ80%）となり計画倒の感が否めない。地区の高齢化率と人口減少率の増加もあるので、今後は現状維持の数値自体が高い目標値となるかもしれないと考える。「地域活動」「学校支援活動」のどちらに軽重を置くのかも含め、教育ファシリテーターの意見に十分耳を傾けて意見を反映させることを期待する。市外からのボランティア派遣の可能性も考慮しながら、「学力向上支援事業」とのタイアップも視野に入れて、今後を判断する必要があると考える。社会教育課と学校教育課の強固な連携を図るのが近道となる可能性を秘めているように考えられる。

| | | | | |
|------|-------|------------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め、多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

17「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」（図書館まつり、ブックリ、子どもの絵本展示会）

事業概要及び目標

栗原市立図書館と9箇所の図書室を結ぶネットワークシステムの活用、「図書館まつり」、「ブックスタート・セカンドブック」などの各種事業や「レファレンスサービス」など各種サービスの実施、移動図書館車の運行などとおして、図書館及び図書室の利用を促し、市民の読書活動を推進する。また、ネットワーク化について継続した広報を行うとともに読書環境の充実について検討する。

市民一人あたりの図書貸出数

| | |
|-------------|-------|
| 現状値（平成30年度） | 3.1冊 |
| 目標値（令和元年度） | 3.2冊 |
| 実績値（令和元年度） | 3.1冊 |
| 達成率 | 96.9% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

市立図書館及び各地区公民館図書室とを結ぶ図書館ネットワークシステムの運用、レファレンスサービスの充実により、利用者ニーズへの効果的なサービスを提供することができたことから、市民一人あたりの図書貸出数としては平成26年度から3冊以上を継続することができた。そのほか、各種イベント（図書館まつり、ブックスタート事業、セカンドブック事業など）を実施することで就学前児童から高齢者まで広く読書活動を啓発推進した。

| 年度 | 総貸出冊数 | （総貸出冊数のうち公民館図書室貸出冊数） | 総人口（年度末） | 市民一人あたりの図書貸出数 |
|--------|----------|----------------------|----------|---------------|
| 平成25年度 | 201,822冊 | 61,593冊 | 73,096人 | 2.8冊 |
| 平成26年度 | 223,493冊 | 61,901冊 | 71,924人 | 3.1冊 |
| 平成27年度 | 217,994冊 | 61,474冊 | 70,895人 | 3.1冊 |
| 平成28年度 | 212,922冊 | 58,154冊 | 69,717人 | 3.0冊 |
| 平成29年度 | 206,405冊 | 60,320冊 | 68,946人 | 3.0冊 |
| 平成30年度 | 211,644冊 | 62,789冊 | 67,829人 | 3.1冊 |
| 令和元年度 | 204,441冊 | 59,609冊 | 66,618人 | 3.1冊 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

Wi-Fiの導入、パソコン利用者への電源提供を令和2年4月から実施するが、引き続き、利用者の利便性向上のためにどのようなことができるか検討する必要がある。また、読書環境の向上のため、貸出条件等の見直しを行う必要がある。



読書環境を更に向上・充実させるため、貸出冊数や期間など柔軟に対応できる体制を検討する。

5 学識経験者の意見

平成26年度以降、市民一人あたりの図書貸出数は、ほぼ一定で横ばいと判断する。既存のシステムをパワーアップしWi-Fiの導入やPC（パソコン）利用者への配慮がなされることにより、図書館や図書室の市民利用率向上が期待される。平成29年度から行っている「セカンドブック」や「読書手帳」の企画運営は、市民利用率を維持させている要因の一つと考えられる。

また、思い切って電子書籍の導入や、端末の貸出（i-Padやクロムブック）など、広域で市民の交通手段として車が主体の栗原市だからこそできる、図書貸出しの方法検討の余地が様々あると考える。移動図書館でも電子書籍の貸出も可能で有り、回収の可否を考えると電子書籍にも当然貸出期間を設定できるので、回収する必要もなく利便性が高いと考えられる。ブックスタートやセカンドブックとタイアップし、若い保護者への新しいサービスとしても考えられよう。貸出密度として示される市民一人あたりの図書貸出数「3.1冊」は、高い数値とは到底言えない（むしろ低い）。是非、貸出密度を上げる工夫を更に図って欲しいと考える。

| | | | | |
|------|-------|----------------------|------|---|
| 施策体系 | 基本方針 | 共に助け合い、潤いに満ちた地域社会の創造 | 基本目標 | 「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興 |
| | 具体的施策 | 国際理解のための学習や事業の推進 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

18「青空大使派遣事業」

事業概要及び目標

市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフや熱帯雨林などの大自然に触れ、ホームステイや現地での学校訪問をとおして、海外の生活・文化、風土等の直接体験や現地の中学生や家庭との交流を行うことにより、異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成することを目標とする。

| 目標指標 |
|------|
| |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

面接やグループワーク等により選抜された市内在住の中学2年生16人を6泊7日でオーストラリアに派遣し、ホームステイ(2泊)や現地校での授業体験や生徒(バディ)との2日間の交流を通して英会話能力の向上や異文化に触れる機会とした。また、グリーン島やキュランダの研修では、世界遺産のグレートバリアリーフや熱帯雨林を眼前にし、自然保護の重要性や多民族国家における共存について学習する機会となった。事前国内研修では、自宅での英会話練習が可能となる工夫とともに、前回参加した生徒(中学3年生)からの体験発表や現地で特別参加した市職員からの講話を新たに盛り込み研修の充実を図った。現地交流での市を紹介するプレゼンテーション等も日本舞踊や空手の演武を取り入れ意欲的に取り組んだ。事後のアンケートでは、「英語だけの生活が体験できた」「アボリジニなど異文化に触れられた」「現地の学校での交流体験ができ自分に自信が付いた」など多くの意見が聞かれた。

| | 期 日 | 研 修 内 容 |
|------|----------------|---|
| 結団式 | 5/10(金) ※保護者参加 | 市長あいさつ、団員紹介、激励・決意のことば |
| 第1回 | | 事業概要説明、旅行説明 |
| 第2回 | 5/19(日) | アイスプレーキング、海外研修説明、班別研修(役割分担、交流会準備)、英会話レッスン |
| 第3回 | 6/23(日) | ダンス練習、英会話レッスン、ホームステイについての講話、健康管理についての講話、渡航先についての学び |
| 第4回 | 7/7(日) ※保護者参加 | 英会話レッスン、班別研修(プレゼン、交流会準備)、前回参加した特別団員からの体験発表、海外研修説明(保護者向け)、保護者にプレゼン発表 |
| 海外研修 | 7/28(日)~8/3(土) | 現地校生徒との交流(授業体験2日間)、ホームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策(世界遺産)等自然体験 他 |
| 第5回 | 8/17(土) | 研修報告準備、報告用資料(パワーポイント)作成 |
| 第6回 | | 研修報告準備 |
| 解団式 | 8/31(土) ※保護者参加 | 市長・団長あいさつ、ねぎらいのことば、研修報告、団員代表のことば |

評 価

| | |
|---|---|
| A | A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) |
| | B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) |
| | C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満) |
| | D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満) |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

参加する生徒の意欲を高めるために国内研修に工夫を凝らし良い結果が得られた。多くの関係者が、ともに良い海外研修になるよう支援したことが参加する生徒に伝わった。海外研修も効果的になるようホームステイ先の設定等を検討する。



現地校とホームステイ先や宿泊先の移動距離に配慮し、研修時間を長く確保できるよう配慮する。

5 学識経験者の意見

多くの自治体で実施している国際社会の一員としての自覚・異文化理解に大変有効な若者への投資であり、昨年度で13回を数える有意義な事業であると判断する。是非、OB/OG、あるいはその保護者、さらには引率教員への追跡調査やその後の意識調査を行って、この事業の有効性を数値化して示していただきたい。そのことが、更にこの事業が発展し拡充したものになると考えられる。また、オーストラリア現地の関係者へのアンケートの経年比較とそのデータの公表が、重要なポイントになるかどうか考える。この事業だけではないかも知れないが、故郷を大切にしている子ども達がこのような大きなインパクトを体験して、将来大人になって納税者になることが、インバウンドとして将来栗原市に還ってくることを期待される。

| | | | | |
|------|-------|--------------------------|------|----------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進 | 基本目標 | 地域に根ざした文化芸術の振興 |
| | 具体的施策 | 文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

19「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」

事業概要及び目標

優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会などを開催する。
また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。

目標指標

参加人数

現状値（平成30年度）15,278人（22事業）
目標値（令和元年度）14,000人（21事業）
実績値（令和元年度）12,842人（19事業）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2事業中止
達成率 91.7%

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

優れた芸術に触れる機会の充実を図り、地域文化の創造に努めるため、各種文化事業を開催した。
若柳総合文化センターの自主事業「宝くじ公演」は、チケットが販売初日に完売となるほどであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止せざるを得なかった。

| 事業名 | 開催日 | 参加人数 | 前年度人数 |
|----------------|----------|--------|--------|
| 小学校芸術鑑賞会 | 6/9、20 | 2,013人 | 1,866人 |
| ジャズコロボくりはら2019 | 9/29 | 1,427人 | - |
| くりはら市民大学基調講演会 | 11/30 | 456人 | 471人 |
| 青少年劇場小公演 | 9/24、30 | 445人 | 607人 |
| 宮城県巡回小劇場 | 9/27 | 167人 | 489人 |
| 第13回栗原市写真展 | 2/22~3/1 | 476人 | 654人 |
| けやきステージ2019 | 1/19 | 215人 | 234人 |
| 計 | | 5,199人 | |

| 事業名 | 開催日 | 参加人数 | 前年度人数 |
|------------------|-------------|--------|--------|
| 第82回河北美術展栗原展 | 5/14~5/19 | 1,204人 | 1,252人 |
| 第18回 栗原みてけらいん美術展 | 6/14~6/23 | 428人 | 616人 |
| 第55回 宮城水彩展「栗原展」 | 7/12~7/18 | 342人 | 444人 |
| 自主公演 | 9/8 | 671人 | 967人 |
| 第23回 栗原市工芸展 | 8/6~8/11 | 213人 | 497人 |
| グランドピアノ一般開放事業 | 9/1~9/30 | 40人 | 42人 |
| 第32回 栗原書道展 | 10/12~10/20 | 158人 | 348人 |
| 第32回 栗原市美術展 | 11/12~11/17 | 384人 | 711人 |
| 寄贈作品の常設展示 | 4月~3月 | 3,147人 | 3,165人 |
| 計 | | 6,587人 | |

※令和元年度の自主公演は「細川たかしコンサート」

| 事業名 | 開催日 | 参加人数 | 前年度人数 |
|-----------------------|------|--------|-------|
| ダンスフェスティバル2019 | 8/25 | 302人 | 256人 |
| 劇団四季ファミリーミュージカル | 9/7 | 505人 | 432人 |
| わかやなぎ音楽祭 | 11/3 | 249人 | 223人 |
| ふるさと劇場～民話とわらべ歌～ | 3/1 | 中止 | - |
| 宝くじ公演「夏川りみと第74回コンサート」 | 3/20 | 中止 | - |
| 計 | | 1,056人 | |

| | | |
|------------------|------|---------|
| 社会教育課実施事業 計 | 7事業 | 5,199人 |
| 栗原文化会館実施事業 計 | 9事業 | 6,587人 |
| 若柳総合文化センター実施事業 計 | 3事業 | 1,056人 |
| 合計 | 19事業 | 12,842人 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

事業開催形態は大きく分けて、鑑賞型事業と市民参加型事業に分けられるが、どちらの事業も市民ニーズにあった内容とすることが必要がある。



見て楽しい、参加して楽しい事業となるよう工夫する。

5 学識経験者の意見

恒例となっている企画の中には、参加人数が増えているもの、減っているものがある。その要因についてアンケート等を活用して探り、市民のニーズに応じていく努力をしていくことが求められよう。その一方で、市民からは必ずしも好評を得られないとしても、啓発・啓蒙的な内容の企画を仕掛けることも大切であるとする。

| | | | | |
|------|-------|--------------------------|------|---------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進 | 基本目標 | 文化財の保存と活用の推進 |
| | 具体的施策 | 文化財の保存・活用と継承活動の推進 | | 担当課 文化財保護課 |

1 目的

先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

| | |
|--|---|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 20「文化財標柱等整備事業」 | 文化財標柱等更新数 |
| 事業概要及び目標 | 現状値（平成30年度） 25基 目標値（令和元年度） 26基 実績値（令和元年度） 26基 達成率 100% |
| 指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に設置している文化財標柱等を計画的に更新する。また、埋蔵文化財包蔵地に設置することにより、無断開発を防止するための周知徹底を図る。 | |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

文化財の保護啓発、周知のために市内に設置している指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の木製と金属製の文化財標柱の中から経年劣化等により損傷が激しく、記載内容等が確認できない26基を選定し改修を行なった。改修と併せ設置場所について、これまで私有地に設置していたものを公有地に移動した。

○令和元年度 文化財標柱改修状況

| 地区名 | 築館 | 若柳 | 栗駒 | 一迫 | 金成 | 花山 | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|
| 指定文化財 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 埋蔵文化財包蔵地 | 2 | 1 | 4 | 11 | 1 | 5 | 24 |
| 合計 | 3 | 1 | 5 | 11 | 1 | 5 | 26 |

○指定文化財・埋蔵文化財関係標柱等調査業況

| | 設置必要数 | 新設補修等必要件数 | | | 補修済件数 | 備考 |
|-----|-------|-----------|--------|-----|-------|----|
| | | 新設必要件数 | 補修必要件数 | 計 | | |
| 築館 | 78 | 43 | 5 | 48 | 30 | |
| 若柳 | 78 | 18 | 7 | 25 | 53 | |
| 栗駒 | 174 | 36 | 41 | 77 | 97 | |
| 高清水 | 108 | 24 | 7 | 31 | 77 | |
| 一迫 | 240 | 8 | 67 | 75 | 165 | |
| 瀬峰 | 136 | 63 | 4 | 67 | 69 | |
| 鶯沢 | 23 | 0 | 3 | 3 | 20 | |
| 金成 | 109 | 34 | 17 | 51 | 58 | |
| 志波姫 | 70 | 7 | 25 | 32 | 38 | |
| 花山 | 104 | 19 | 19 | 38 | 66 | |
| 総数 | 1,120 | 252 | 195 | 447 | 673 | |

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

埋蔵文化財包蔵地に設置する標柱について、周辺が遺跡であることを地域住民の方々に周知する工夫が必要である。



私有地に設置しているものを優先に公有地に建て替える。

5 学識経験者の意見

標柱の更新や公有地への移設などは、本事業への地域住民の理解と支援を得るうえで必要な対応である。地味ではあるものの、手堅い活動を継続することで、未来に対する責任を果たすことができる。指定文化財・埋蔵文化財包蔵地についての情報を市民および関心を寄せる人々に効果的に提供するためにも、文化財マップを作成して欲しい。

| | | | | |
|------|-------|--------------------------|------|---------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進 | 基本目標 | 文化財の保存と活用の推進 |
| | 具体的施策 | 文化財の保存・活用と継承活動の推進 | | 担当課 文化財保護課 |

1 目的

先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

| | |
|--|---|
| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
| 21「歴史・文化の継承支援伝統芸能活動支援事業」 | 活動継続個人・団体数 目標値（令和元年度） 個人 4人 団体 12団体 |
| 事業概要及び目標 | 実績値（令和元年度） 個人 2人 団体 10団体 達成率 77.8%（14/18人. 団体） |
| 指定文化財及び史跡、天然記念物等の保護活動を行う個人・団体並びに伝統技術や民俗芸能を継承する個人・団体に対する活動支援策として、補助金を交付し活動の継続を支援する。 | |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

指定文化財や史跡、天然記念物、無形文化財保存伝承、無形民俗文化財保存活動を行う個人や団体に対し、補助金申請の際に各団体等の活動状況や実情など聞き取りを実施した。その結果、記念物の樹勢回復事業等と民俗芸能の伝承活動について、令和元年度の補助金申請を辞退する個人・団体があった。

○補助金交付団体等

| No | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 指定区分 | 名称 | 補助金交付事業 |
|----|-------|---------|------|------|------------|---------|
| 1 | 記念物 | 史跡 | | 国 | 旧有壁宿本陣 | 維持・管理事業 |
| 2 | 無形文化財 | 工芸技術 | | 県 | 正藍染 | 技術の伝承活動 |
| 3 | 民俗文化財 | 無形民俗文化財 | 民俗芸能 | 国 | 小迫延年保存会 | 伝承活動 |
| 4 | | | | 県 | 真坂鹿踊保存会 | 伝承活動 |
| 5 | | | | 県 | 清水目鹿踊保存会 | 伝承活動 |
| 6 | | | | 市 | 栗原神楽保存会 | 伝承活動 |
| 7 | | | | 市 | 中野神楽保存会 | 伝承活動 |
| 8 | | | | 市 | 文字駒堂神楽保存会 | 伝承活動 |
| 9 | | | | 市 | 瀬峰神楽保存会 | 伝承活動 |
| 10 | | | | 市 | 鶯沢神楽保存会 | 伝承活動 |
| 11 | | | | 市 | 鶯沢八ツ鹿踊り保存会 | 伝承活動 |
| 12 | | | | | 風俗風習 | 市 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

継続して各団体等から活動状況や実情などの聞き取り調査を実施し、要望を把握することが重要となっている。



補助金申請の際、各団体から聞き取りを行って、要望等について支援事業に反映させていく。

5 学識経験者の意見

個人や団体、つまり文化継承のための人的資源を保護、あるいは発掘していくことが求められる。実情を把握するための聞き取りが行われたことで、今後の施策についての課題と展望が開かれたのではないだろうか。補助金交付事業を有効に運用するためにも、エビデンスに基づきながら、行政が具体的なアドバイスをしていくことが必要である。

| | | | | |
|------|-------|------------------------|------|-------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進 | 基本目標 | 心身の健康保持増進とスポーツの推進 |
| | 具体的施策 | スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

22「栗原ハーフマラソン大会」

事業概要及び目標

大会参加満足度

子どもから高齢者まで、多くの市民が参加しやすいよう種目を設定し、日本陸上競技連盟の公認を取得した、栗原市ハーフマラソンコースを会場に開催する。参加ランナーには「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを体感しながら健康増進・体力向上を図れるような大会運営とする。

| | |
|--------------|-------|
| 現状値 (平成30年度) | 73.8点 |
| 目標値 (令和元年度) | 78.0点 |
| 実績値 (令和元年度) | 74.3点 |
| 達成率 | 95.3% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

出走者数は1,481人(親子ペア296人)であり、そのうち市民は287人(親子ペア140人)の出走があった。当日は、風が強かったものの天候に恵まれ、市内外から就学前の子どもから高齢者まで多くの参加者が景色を楽しみながら健脚を競い、爽やかな汗を流し健康増進及び体力の向上が図られた。

また、多くの市民ボランティアの参加により、運営もスムーズであった。さらに、沿道からも大きな声援があり、参加者との交流も図られた大会となったが、参加者からは「帰りのシャトルバスに行き先を表示してほしい」、「更衣室のスペースをもう少し広くしてほしい」など、改善点の意見も寄せられた。

| 大会 | 点数 |
|---------------|-------|
| 第1回大会(平成27年度) | 72.9点 |
| 第2回大会(平成28年度) | 82.8点 |
| 第3回大会(平成29年度) | 79.3点 |
| 第4回大会(平成30年度) | 73.8点 |
| 第5回大会(令和元年度) | 74.3点 |
| 平均 | 76.6点 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
- B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
- C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
- D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

市外から大会へ参加される方や親子ペアの参加数が年々増加していることから、運営面や設備を充実させる必要がある。



大会参加者や関係団体の意見を基に、運営、設備を充実させ快適な競技環境をつくり、参加者の満足度の向上を図る。

5 学識経験者の意見

近年の健康ブーム、マラソンブームもあり、参加者も年々増えてくことも考えられる。このことや新型コロナウイルス対策などもあり、これまでの運営に加えて、様々な工夫が求められるだろう。しかしながら、伊豆沼を経由するコースは、選手にとっても、魅力的である。また、参加者の前日入りや帰路に栗原の良さをアピールできるような準備も必要であると考えられた。さらなる大会の発展が期待される。

| | | | | |
|------|-------|------------------------|------|-------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進 | 基本目標 | 心身の健康保持増進とスポーツの推進 |
| | 具体的施策 | スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

| 施策を構成する事業 | 目標指標 |
|--|---|
| 23「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」 (教育委員会主催事業) | 各種大会参加人数 現状値(平成30年度) 3,153人 目標値(令和元年度) 3,300人 実績値(令和元年度) 3,227人 達成率 97.8% |
| 事業概要及び目標 | |
| 市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。 また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。 | |

3 令和元年度の取組と自己評価

| 取組と成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------|----------------------------------|--------|-----|----|-----|------|-----------|-----------|----------|------|-----------|------|------------|------|----------------------|-------|--------|------|---------------------|-----------|------------|------|-----------------|-----------|----------------------------------|------|---------------|-------|--------|------|-----|--|--|--------|
| <p>○スポーツ大会等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種大会を開催した。 小学校陸上競技大会は、各校の協力もあり多くの児童が参加できた。 <p>【小学校大会新記録種目】 男子6年生100m、女子5年生100m、男子5・6年共通1,500m、男女とも5・6年生共通コンバインドA、コンバインドB、女子4年生100m、男女混合4×100mRの9種目</p> <p>【高校陸上大会新記録】 男子：200m、400m、400mハードル、5,000m競歩、走高跳、棒高跳 女子：400m、2,000m障害の8種目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>対象者</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東北中学校卓球大会</td> <td>5月25日～26日</td> <td>東北地方の中学生</td> <td>699人</td> </tr> <tr> <td>小学校陸上競技大会</td> <td>6月9日</td> <td>市内小学校4年生以上</td> <td>989人</td> </tr> <tr> <td>「豊田合成トレフェルサ」バレーボール教室</td> <td>7月20日</td> <td>市内小中学生</td> <td>101人</td> </tr> <tr> <td>くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会</td> <td>7月20日～21日</td> <td>県内・岩手県内高校生</td> <td>941人</td> </tr> <tr> <td>山崎武司杯東北中学野球交流大会</td> <td>7月29日～30日</td> <td>秋田選抜、盛岡市選抜、秀光中等教育学校、栗原選抜、山崎杯宮城選抜</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>山崎武司杯少年野球選抜大会</td> <td>11月3日</td> <td>県内の小学生</td> <td>387人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合 計</td> <td>3,227人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 事業名 | 期日 | 対象者 | 参加人数 | 東北中学校卓球大会 | 5月25日～26日 | 東北地方の中学生 | 699人 | 小学校陸上競技大会 | 6月9日 | 市内小学校4年生以上 | 989人 | 「豊田合成トレフェルサ」バレーボール教室 | 7月20日 | 市内小中学生 | 101人 | くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会 | 7月20日～21日 | 県内・岩手県内高校生 | 941人 | 山崎武司杯東北中学野球交流大会 | 7月29日～30日 | 秋田選抜、盛岡市選抜、秀光中等教育学校、栗原選抜、山崎杯宮城選抜 | 110人 | 山崎武司杯少年野球選抜大会 | 11月3日 | 県内の小学生 | 387人 | 合 計 | | | 3,227人 |
| 事業名 | 期日 | 対象者 | 参加人数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東北中学校卓球大会 | 5月25日～26日 | 東北地方の中学生 | 699人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校陸上競技大会 | 6月9日 | 市内小学校4年生以上 | 989人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「豊田合成トレフェルサ」バレーボール教室 | 7月20日 | 市内小中学生 | 101人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会 | 7月20日～21日 | 県内・岩手県内高校生 | 941人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山崎武司杯東北中学野球交流大会 | 7月29日～30日 | 秋田選抜、盛岡市選抜、秀光中等教育学校、栗原選抜、山崎杯宮城選抜 | 110人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山崎武司杯少年野球選抜大会 | 11月3日 | 県内の小学生 | 387人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | | | 3,227人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 評 価 | |
|----------|---|
| B | <p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p> |

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

| | | |
|---|---|---|
| 開催時期がほぼ固定化してきているが、全体的には参加者は、ほぼ横ばいであるが、事業によっては、競技人口の減少もあり、参加人数が年々減少している。 | ➡ | 今後も、関係者や各競技団体と協力しながら、現在の体制を維持、継続し、事業内容の充実を図る。 |
|---|---|---|

5 学識経験者の意見

課題にしめされているが、一部競技では競技人口の減少も確認されている。子どもを対象にした事業であることから、少子化や運動・スポーツ競技も多様化の影響によるものと考えられる。しかしながら、栗原市の位置関係などから、岩手県や秋田県からのチームを受け入れて、実施されている点は、継続して展開してもらいたい。また、小学生の陸上競技大会は、体力・運動能力向上を意識させることにも繋がるのが期待された。

| | | | | |
|------|-------|------------------------|------|-------------------|
| 施策体系 | 基本方針 | 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進 | 基本目標 | 心身の健康保持増進とスポーツの推進 |
| | 具体的施策 | スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実 | | 担当課 社会教育課 |

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
 （注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

24「宮城ヘルシー2019ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」

事業概要及び目標

子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かしたスポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。

目標指標

大会参加人数（地区予選会含む）

| | |
|-------------|--------|
| 現状値（平成30年度） | 4,029人 |
| 目標値（令和元年度） | 4,600人 |
| 実績値（令和元年度） | 4,414人 |
| 達成率 | 96.0% |

3 令和元年度の取組と自己評価

取組と成果

スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに生涯スポーツの振興を図ることができた。昨年度より大会参加人数が約500人増となったものの、地区予選会への参加人数が約200人減となったことから、目標値を達することができなかった。

【開催日】8月18日（日）

【会場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒

【種目・参加人数】本大会・地区予選会の総参加者数 4,414人

大会参加人数

| 種目 | チーム数 | 選手人数 |
|---------------|------|--------|
| ソフトボール | 8 | 271人 |
| 家庭バレーボール | 10 | 262人 |
| 家庭バレーボール（シニア） | 4 | 116人 |
| ベタंक（シニア） | 10 | 120人 |
| ベタंक（フリー） | 10 | 116人 |
| グラウンド・ゴルフ | 10 | 101人 |
| 健康づくりコーナー | | 73人 |
| ニュースポーツ体験 | | 30人 |
| ロープジャンプチャレンジ | | 38人 |
| 表彰者・来賓 | | 10人 |
| 合計 | 52 | 1,137人 |

地区予選会参加人数

| 種目 | 参加人数 |
|---------------|--------|
| ソフトボール | 1,199人 |
| 家庭バレーボール | 836人 |
| 家庭バレーボール（シニア） | 54人 |
| ベタंक（シニア） | 275人 |
| ベタंक（フリー） | 133人 |
| グラウンド・ゴルフ | 780人 |
| 合計 | 3,277人 |
| 大会参加人数 | 1,137人 |
| 地区予選会参加人数 | 3,277人 |
| 合計 | 4,414人 |

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和2年度に向けた課題・今後の方針

子どもから高齢者まで多くの市民が参加できる大会ではあるが、参加者の高齢化などにより、参加者が減少してきている。



関係者や各競技団体と協力しながら、積極的に地区予選会への参加の呼びかけを行い、大会参加者の増加と安定を図る。

5 学識経験者の意見

子どもから大人まで幅広い世代、そして栗原の地域住民が集う機会を大変重要な事業である。例えば、学校などと連携して、子ども達も加えた大会などに発展させることはできないだろうか。これまでの競技に加え、三世代合同競技などがあると、参加人数の安定にも繋がるのではないかと考えられた。総参加人数が4,000人を越えるのは、運営において、大変なことであるが、是非今後の発展を期待したい。

3 学識経験者の意見

○ 宮城教育大学 教授 佐藤 哲也 氏

年度末にコロナ禍に巻き込まれたものの、手堅い事業計画・運営で成果を挙げている。新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えないなか、教育をめぐる事業の事務管理・執行は、従来どおりの対応では立ちゆかないことが危惧される。いわゆる“3密”を避けるためには、ICT（Information and Communication Technology）を活用したミーティングや情報発信・公開が求められており、“ピンチをチャンスに変える”ためにも、PDCA プラットフォームの革新に努めてほしい。栗原市が掲げる目的（ヴィジョン）に向けて一步一步近づいていくために新たに目標（目当て・目印）を立て、行政としての取り組みを進めることを期待する。

○ 宮城教育大学 准教授 黒川 修行 氏

今回の点検及び評価の結果報告書を見ている中で感じたのは、それぞれの施策体系の中の検討に留まってしまっている点であろう。対象者が子どもという同じ枠組みであるにも関わらず、それぞれの施策での評価となっており、結果として、栗原の子ども達にとって、これらの施策がどのように影響を与えたと考えられるのか、総合的な評価が必要ではないかと考えられた。

例えば、学力・健康・体力の指標がどのように関連しあっているのか、また家庭生活と学校生活との関係性などが繋がることにより、より明確な目標や課題を見出すことができるのではないかと考えられた。

また、子ども達を取り囲む生活環境は、子ども達の様々な能力に影響を与えるとともに、可能性を引き出すこともできるのではないかと考えられる。このような状況の中でも、子ども達が市の様々な施策に主体的に参加することができれば、児童の発育・発達にも影響を与え、栗原市の貴重な資産ともなり得るだろう。このようなことに向けた市における様々なセクションにおける協働が期待される。

○ 宮城教育大学 准教授 渡辺 尚 氏

概ね粛々と栗原市教育基本方針に基づき教育行政が行われていることが、読み取れる報告と言える。一方、現状に甘んじることなく、広域地区を益々の人口減で対応する未来に向けて「学府くりはら」の施策を踏襲し達成していくためには、現状維持ではジリ貧であることは明白である。

是非、地方自治の素晴らしい戦略を継続して立案し、戦術面でカバーするばかりか、弾力的運用し、時にはチャレンジングに実行することも期待したい。

ふるさと納税では、栗原市は社会教育や子育て支援・学力向上推進を使い道の選択肢に掲げているが、実際どれくらい活用され（予算が回され）、恩恵を享受しどの程度の効果が得られたかについては、頂戴した資料から読み取れなかった。

教育は百年の計とも言われるが、栗原市はその100年を見据えられるだろうか？将来納税者となり戻って来て欲しい子ども達に強い郷土愛を育ませることはできる教育政策であるだろうか？郷土の子ども達から突出した人材を育成して、将来起業したり、ふるさと納税に代表される寄付行為などで、ふり返って貰える教育を施しているだろうか？目まぐるしく変わる社会情勢に対応できるような投資を教育にかけているだろうか？令和2年度より完全実施された小学校の新しい学習指導要領への対応が目先のものだけになっていないだろうか？ICT活用の研修会が充実したとの報告であったならば、今年度のコロナ感染症にある程度は対応できたと胸を張って振り返れるだろうか？教育施策の転換と関係なくいつの時代も需要の多い、理科・国語・算数（数学）の研修は、しっかり行われているのだろうか？学力テストの結果を後追いしているように思えるが、秋田県大仙市の教育事例を栗原市流にアレンジできているだろうか？その派遣事業に参加した教員は、より授業改善に中心的立場となっているという報告であったが、単に管理職予備軍としてではなく実効性を具備して子ども達の変容として表れてきているのだろうか？青空大使で派遣された子ども達のその後の追跡調査はできているだろうか？

是非、次の報告書以降に、これらの「？」に対するリプライが述べられており、拝見できることを期待したい。思い切った施策と教育投資をもって学校教育と社会教育の双方を安定させると、自ずと教員に代表される職員の忙しすぎる実態に対する「働き方改革」をも解決できるものと期待する。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

宮城教育大学の3名の先生方からいただいた御意見を参考に、今後、次のとおり実施してまいります。

(1) 学府くりはらの学校教育（事業 NO.1～10）

学校教育に関する施策が、手堅い事業計画・運営で成果を上げていると評価をいただくとともに、より明確な目標や課題をもつての事業計画・運営、他の施策や事業との連携・統合についてご意見をいただきました。

令和2年度では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、感染症対策と、子ども達の学びの保障の両立が求められています。国・県の支援を受けつつ人的・物的な学習環境の整備等を進め、学校教育の充実に努めてまいります。

学力向上に向けては、教科指導等におけるICTの活用に関する教員研修を引き続き推進するとともに、本市の独自の研究指定校での取組、Q-U（学校満足度）調査を用いた落ち着いた学習環境と人間関係づくり、大学等と連携した長期休業中・放課後での学習会など様々な面からの学力向上策を推進します。

また、いじめ、不登校の未然防止や早期解決に向けては、学校での命を大切にする教育の実践とともに、前年度スタートした心のケアハウスと適応指導教室、市の教育相談員の連携・協働を進め、学校や家庭からの相談等に応じる体制づくりを進めてまいります。また、以上のことが保護者・地域の理解と協力を得て推進できるように、誰もが閲覧しやすい市公式ウェブサイト上での情報の発信を充実してまいります。

(2) 学府くりはらの社会教育（事業 NO.11～24）

社会教育事業の取組みにつきましては、昨年度末にコロナ禍に巻き込まれたものの成果を上げられていると評価をいただいております。また、新型コロナウイルス感染の終息が見えないなか、従来どおりの対応では立ち行かないことが危惧されることから、ICTを活用したミーティングの実施など、事業を継続するための創意工夫が必要であるといったご意見もいただきました。

令和2年度の生涯学習事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの事業が中止となったことから、ICTを活用した遠隔講義など「新しい生活様式」を取り入れながら、事業の実施に向けて検討します。

また、学校と地域が連携して行う協働教育の推進につきましては、家庭、地域、学校と関係機関との連携強化に努め、地域の人材育成と有効活用できる体制づくりを推進し、地域全体で子どもを育てる環境を構築します。

文化芸術活動につきましては、市民のニーズを把握し、参加者に満足していただける魅力的な事業を企画するとともに、多くの市民に参加いただけるよう広報等を改善するなど事業の活性化を行います。

スポーツ振興におきましては、市民が行うスポーツ活動を引き続き支援していきます。また、令和2年度においてコロナ禍の影響により中止した栗原ハーフマラソン大会や宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭栗原地区大会などのスポーツ大会は、市民の健康増進、世代間交流、地域の活性化につながることから、来年度の実施に向けて感染リスクへの対応等も含め準備を進めます。

なお、公民館整備基本構想に基づく社会教育施設の整備や、図書環境の拡充による読書活動の増進につきましても、引き続き推進してまいります。

文化財の保存と活用の推進については、今後も継続的に活動を行っていくことの必要性に加え、文化財に関する情報提供の方法の工夫や伝統文化の継承のための人的資源の保護・発掘の必要性についてご意見をいただきました。

文化財標柱については、今後も継続的に更新・移設を行い、文化財に関する周知を進めるほか、パンフレットやマップの作成を通して市内外の方々から栗原の各地域の歴史に目を向けてもらうよう努めます。

伝統芸能活動の支援では、年々変化してゆく団体の活動状況を把握し、課題に対する意識を共有することで、対応を図ってまいります。